一般及雜

E-1704

0001

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分類 E4.2.2.2

極秘

文書課長

「北樺太石油、石炭利權關係

警務課長

「北樺太石油、石炭利權ハ我北樺太石油、石炭利權ニ對シ有スル方面
数數年來「ソ」政府ハ我ヨリ極端ナル壓迫ヲ加ヘ南利權企業ヲシテ其ノ圓滿ナル經營ヲ不
可能ナラシメツツアルニ付我方ニ於テハ從來ヨリ「ソ」政府ニ對
シ斯ル「ソ」側ノ日「ソ」基本條約及利權契約ヲ無視セルカ如キ
不當壓迫態度ニ対シ正方嚴重且執拗ニ抗議乃至交渉ヲ繼ケ居レルモ目
下ノ處「ソ」側ノ態度ハ依然トシテ改善ヲ見サル有樣ナリ
而シテ現在問題トナリ居ル懸案中特ニ重要ナルモノハ
「南利權企業經營上ノ原動力ヲナス日「ソ」人勞働者ノ現地送込
ミ妨害
二、南企業ニ對シ巨額ノ賠償金支拂ヲ命セル不當裁判事件
三、石油利權企業ノ「オハ」鑛場以外ノ各鑛場ニ於ケル事業經營妨
害
ニシテ右ニ付テハ目下在「ソ」帝國大使館ヲシテ「ソ」政府ニ對
シ極力交渉セシメツツアリ

外務省

(日本標準規格B5)

外務省

(日本標準規格B5)

E-1704

0008

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

照合票

(分類 E4.2.2.2)

合第二五三號

昭和十四年三月六日

記錄件名

發信者 有田大臣

受信者 英米七六ヶ所

件名 在蘇帝國權益ニ関スル清水外務政務次官ノラヂオ講演筆文送付ノ件

原書ハ左記ニ在リ

記

A門3類3項6目12/1/號 本邦対内啓発ニ関スル講演ニ関スル件

本省員講演ニ関スル件

E-1704

0009

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

編者附言
第主ノ外務大臣ニ
日ニ外務大臣
発電ナリ

(分類 E4.2.2.2)

昭和14　二四七三八　平倫教　七月廿七日後發
本省　廿八日前着
重光大使

有田外務大臣

第八七四號

一般的情報

二十六日「テレグラフ」東京特電ハ北樺太ノ石油、石炭關係紛議ハ極東ノ一般情勢トハ無關係ナルモ軍部ハ大規模示威ノ必要ヲ感シ居リ近ク重大發展ヲ見ルヘシ他方全滿ニ亘リ戰時ニ等シキ防空措置執ラレタルカ日本側ハ常ニ勝利説ヲ放送シ居ルニ拘ラス實際ハ國境線ニ於テハ空陸共戰況日本側ニ不利ナリト報ス

外務省

日本標準規格B5

大臣
次官
電信課長
東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

寫送先

(分類 E4.2.2.2)

昭和14　二六二七九　（暗）　莫斯科　八月八日後發　歐、倩
本省　九日前着
東郷大使

有田外務大臣

第九一八號

往電第八四八號末段ニ關シ

松井造船所ニ註文セル蘇側船舶ニ關スル裁判事件ハ當方交渉上ノ都合アルニ付右經緯貴方ニ判明セル分ヲ御回電アリタシ

尚日蘇通信七月十四日號ニハ熊谷組ニ對スル同様問題記事掲載サレアル處本件ニ付テモ御通報アリタシ（了）

常局ト対露和解問題進捗

外務省

E-1704

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

編者附言
原書ハ[illegible]ニアリ

寫

(分類 E.4.2.2.2)

昭和14　二八一一〇　（暗）　莫斯科　八月廿二日前發
本省　廿三日前着

有田外務大臣　東郷大使

第九七〇號ノ一（極秘）

往電第九六九號利權問題ニ付折衝ヲ重ネタル際「ロゾフスキー」ヨリ兩國正常關係ハ自分モ非常ニ希望スル所ナルカ之カ爲ニハ双方共其ノ義務ヲ嚴守スルコト必要ナリト言ヘルニ依リ本使ハ兩國關係カ正常ナル立場ニ置カルルコトハ以前ヨリ再三申述ヘタル通リ本使ノ希望スル所ニシテ之カ爲ニハ一切ノ諸懸案卽チ漁業問題、利權問題國境問題其ノ他ヲ解決スルコト肝要ナリ蘇政府ニシテ眞心ヨリ本使ノ希望ヲ分ツニ於テハ各種懸案ヲ双方ノ善意ニ依リ解決スルノ決意ヲ有スルコト必要ナリト述ヘタル處先方ハ貴使ハ在來爾餘ノ諸懸案ニ付テハ說示セラレタルモ今迄國境問題ニ付具體的ニ御申出アルニ於テハ蘇側ハ之ヲ研究スルコトトスヘシト答ヘタリ依テ本使ハ從來

外務省

（日本標準規格B5）

共一切ノ懸案解決ト言ヒタル次第ニテ其ノ內ニハ當然國境關係ヲ含ム次第ナリ蘇側ニ於テハ常ニ正常關係云々ヲ口ニセラルル處眞ニ之ヲ希望セラルルナラハ今日申述ヘタル利權關係諸問題ノ如キ直ニ之ヲ協議スルコト必要ナリ但シ蘇側ニ於テ何等カノ意圖ヨリ日蘇關係ノ好轉ヲ欲セサルナラハ格別ナルモ現下ノ歐洲等ニ於ケル國際政局ヨリ見テ日本トノ國交關係ヲ悪化スルコトハ蘇側トシテ利益ナリヤ否ヤ大ナル疑問ナルヘシ（續ク）

外務省

（日本標準規格B5）

E-1704
00:1
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和14　二八一一五　（暗）　莫斯科　八月廿二日前發
有田外務大臣　本省　廿三日前着　東郷大使

第九七〇號ノ二（極秘）

兎ニ角蘇側カ眞ニ正常關係ヲ希望スルノ誠意ヲ有セハ其ノ方法ハ貴方ニ於テ研究セラルルナラハ多々アルヘシ何レノ途蘇側ニ於テハ利權關係人員及物資輸送問題ノ如ク蘇側ノ當然許可スヘキ諸案件ニ付我方申入ヲ容レ先ツ誠意ヲ示サルルコト可然シト述ヘタルニ「ロ」ハ日蘇關係正常化ニ關スル誠意云々ハ先ツ之ヲ日本政府ニ向ケラルヘキナリ蓋シ關係改善ノ如何ハ一ニ同政府ノ態度ニ懸ルヲ以テナリ貴使ハ利權關係ニ付テハ詳細申出ラレタルモ國境問題ニ付テハ何等具體的ニ申出テラレタルコトナシ若シ具體的ノ御申出アラハ蘇側ニテモ研究スヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ國交正常化ノ如何ハ日本政府ノ態度ノミニ懸ルトノ言ハ了解シ得ス双方ニ改善ノ意嚮ナキ限リ

外務省

（日本標準規格B5）

正常化ハ不可能ナルヲ以テ此ノ點蘇側ノ熟考ヲ求ムルモノナリ國境問題ニ付再三御話アリタルカ自分トシテハ何等政府ノ、訓令ヲ受ケ居ラサルヲ以テ以下私見ニ基キ申述フル儀ナルカ現在「ノモシハン」地方ノ如キニ付テ之ヲ觀ルニ日本側亦若干ノ損害ヲ受ケ居ルモ蘇側ノ損害ハ右トハ比較ニナラサル程甚大ナルアリ蘇側カ如何ナル目的ヲ以テ同地方ニ於テ斯ル無用ノ行動ヲ敢テ爲ツツアリヤ其ノ意味合ハ不可解ニ屬スル所ナリ（續ク）

外務省

（日本標準規格B5）

E-1704

00 12

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和14　二八一五二　（暗）　莫斯科　八月廿二日前發
有田外務大臣　本省　廿三日前着
東郷大使

第九七〇號ノ三（極秘）

又自分ノ有スル報道ニ依レハ「ノモンハン」地方ノ殆ト全部ハ日滿軍ニ依リ占領シ居ル次第ナルカ若シ蘇蒙軍ニシテ全部「ハルハ」河以南ニ撤退スルノ意思アルニ於テハ日滿軍ハ爾後之ヲ攻擊セサル樣取計方考慮ノ餘地ナキヤ日本政府ニ請訓シ見ルモ差支ナシト思考ス

ト述ヘタル處「ロ」ハ本件政府ヨリ訓令ニ接シ居ラレサルニ於テハ御話スルモ無益ナリ唯戰況ニ付テハ同盟通信其ノ儘ヲ述ヘラレ居ルカ如キモ斯テハ貴使ハ甚タ氣不味キ立場ニ陷ラルルコトアリ得ヘシ尤モ貴使カ本件ニ付正式ニ訓令ヲ受ケラルルニ於テハ特ニ之カ爲會見ヲ爲スモ可ナリト述ヘタルニ依リ本使ハ戰況ニ付同盟通信云々ト言ハルルモ本使ノ陳述ハ政府ノ公報ニ基クモノニシテ蘇側ノ損害ノ

外務省

（日本標準規格B5）

甚大ナルハ確證アルコトナレハ貴方モ篤ト現地ニ於テ取調ヘラルレハ判明スヘシ尙本使ノ唯今申述ヘタル所ハ若シ蘇側ニ於テ希望ヲ有セラルルナラハト言フ前提ノ上ニ立ツモノナリ從テ貴下ニ於テ政府ト協議セラレタル上此ノ種希望ニ付會見ヲ希望サルルニ於テハ何時テモ會談ヲ辭セスト述ヘタルニ「ロ」ハ蘇側トシテハ日本側ヨリ訓令ニ基キ具體的ニ申入ラルルナラハ之ヲ研究スヘシト言フニ在リト繰返シ本使ハ貴方コソ政府ノ膝下ニ在ルコトナレハ政府ト協議セラルルコトハ便宜ナル次第ニモアリ本使トシテハ貴方ヨリ申出アル場合重ネテ會談スルコトトスヘシト應酬シ辭去セリ（了）

外務省

（日本標準規格B5）

E-1704
00 13
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

寫

分類 E 4. 2. 2. 2

編者附言
原書ハ左ノ2.2.2-1
帝国ノ対露利権問題
関係External
北樺太石油会社

昭和14　二九三九六　（暗）　奥斯科　八月廿九日後發
阿部外務大臣　本省　卅日後着
東郷大使

第一〇二六號ノ一（極祕別電）

(一)一ノ二項

「カタングリ」ノ海岸「タンク」ニ對シ規定ニ無キ「フォーマイト」裝置ヲ要求スト有ルモ右ハ法規ニ化學的防火裝置ト規定セラレ居リ右ハ結局「フオ」裝置ヲ指稱スルモノニアラスヤ

(二)一ノ三項

火災原因ニ關シテハ先方ヲ充分ニ説得シ得ルカ如キ確實ナル根據無キヤ

(三)四

「オハ」兩坑井採油許可問題ニ關シテ中央ニテハ何等ノ回答ヲ爲サスト有ルモ右ハ當時外國課ニテ採油許可セリ

外務省

（日本標準規格B5）

(四)八

財産使用料問題ニ關シ從來支拂ヲ爲ササリシ理由ハ充分説明スルモ今般先方ヨリ正式ニ本件訂正越セル以上之カ解決ニ關シテハ其ノ根本問題タル財産歸屬權問題ニ關シ協議スル用意有ルコトヲ表明スル方可ナルヘシ

(五)一一

左近司「ルヒモウイチ」交換覺書ニ依ル六月末現在高保有量ニ關シ觸ルルトキハ同覺書別項ニ基キ今後供給品輸入ニ際シ露人賃金總額ヲ限度トスルコトヲ主張セラルル可能性有ル處右ハ現在ノ物資輸入慣行ニ比シ一層複雑且不利ト成ラサルヤヲ惧ル

酒密造ノ責任ハ蘇側ニ在リトノ議論ハ蘇聯法規ヲ邦人カ犯スヲ日本政府ハ擁護スルトノ口實ヲ與ヘ穏當ヲ缺クノミナラス密造祕密ヲ自認スル如キ陳述ハ今後先方ハ斯ル違犯ニ對シ法規ニ依リ嚴重ナル手段ニ出ツル切掛ヲ作ルヘキニ付當方トシテモ密造取締ヲ嚴

外務省

（日本標準規格B5）

E-1704
00 14
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

重ニスルコトヲ言明スルト同時ニ斯ルコト起ラサル様日本（脱ヵ）許可ヲ要求スルコトトシテハ如何（續ク）

外務省

（日本標準規格B5）

昭和14　二九三九〇　（暗）　莫斯科　八月廿九日後發
阿部外務大臣　本省　三十日前着
東郷大使

第一〇二六號ノ二（極祕　別電）

十二月及一月分ノ未供給品追加配給ハ中央ニテハ協定後直ニ行フコトニ協定セルモノニシテ先方ハ之ヲ熟知シ居ルニ付右ハ實際ニ照シ訂正ヲ要スト思考ス

(六)松尾造船所ノ問題ニ關シテハ松尾側ニ前渡金返還拒絶ノ理由ナキノミナラス我方ニ於テ諸問題ニ付裁判ノ内容ニ立入リテモ外交交渉ニ依ル解決ヲ主張シ居ル關係上此ノ種反駁ハ先方ニ逆用セラルル惧アルニ付往電第九九六號前段御參照ノ上蘇側ニ於テ類似事件ニ付之ト同様ノ態度ヲ採ルニ於テハ我方ニ於テモ適當斡旋方考慮スヘシトノ趣旨ヲ表明スルコト然ルヘシ

(七)尚反駁文中ニハ「オハ」竝ニ「カタングリ」「タンク」問題其ノ

外務省

（日本標準規格B5）

E-1704
0015
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

他先方回答文ニ觸レ居ラサリシ問題ニ關シテモ言及シアル處斯ノ如ク新問題ヲ提起スルニ於テハ解決益々遲延且困難トナリ延イテハ一般作業ノ支障大トナル惧アルニ付新規問題ニハ觸レス先ツ先方提案ノ問題ニ付反駁スルヲ可ナリト思考ス　（了）

外務省

（日本標準規格B6）

昭和14　二九三八一　（暗）　莫斯科　八月廿九日後發
本省　三十日前着

阿部外務大臣　東郷大使

第一〇二五號ノ一（極祕）

貴電第四八一號ニ關シ（北樺太利權壓迫問題ニ關スル件）

貴電第四八二號ヲ檢討スルニ同電冒頭一、二ハ我方從來ノ主張ヨリスレハ當然ノ儀ナルモ「一切ノ適當ナル保護及便益ヲ與フヘシ」等ノ規定ハ蘇側カ之ヲ極メテ狹義ニ解釋スル場合結局水掛論ニ終ルヘク且蘇側ニ於テハ從來ヨリ北京條約議定書所載ノ事項ハ利契ノ成立ト同時ニ利契及國內法規ニ移讓セラレタリトノ主張ヲ爲シ來レル次第ニテ又往電第六〇九號所載ノ外「ツアラブキン」ハ本月二十五日七田ニ對シ利權ノ內容ニ關スル折衝ハ之ヲ會社ト當該官憲ニ一任スルコトニ一昨年當時ノ日本大使ハ承諾ヲ與ヘラレタリト述ヘ居ル關係モアリ此ノ種申入ヲ爲スモ先方カ直ニ之ニ聽從スヘシトハ思ハレ

外務省

（日本標準規格B6）

E-1704

00 16

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ス往電第八〇四號ニ申進ノ通リ水掛論ニ終ルヘキハ必定ナリ現行利契カ大體會社側ニ不利ナル點多キハ別問題トシ利契嚴守ノ建前ヨリスレハ會社側ノ態度ヲ是正セシムルヲ要スヘシト認メラルル點多々アル現狀ニ於テ全面的ニ先方ノ申分ヲ反駁スルノミニテハ日本政府ハ徒ニ利權者側ノ不法行爲ヲ擁護シ居ルトノ先方側主張ニ材料ヲ與フルノミニテ一層其ノ態度ヲ硬化セシムル危險大ナル次第ニシテ斯クノ如キハ國境問題其ノ他ニモ（續ク）

（日本標準規格B5）

昭和14　二九三七八　（暗）　莫斯科　八月廿九日後發
本省　三十日前着

阿部外務大臣　東郷大使

第一〇二五號ノ二（極祕）

惡影響ヲ及ホシ國交關係ノ全般ニ及ホス影響亦鮮カラスト認メラレ日蘇國交ノ現狀ヨリシテ殊ニ考慮ノ必要アルヘシ又七月廿四日蘇側回答ハ蘇側ニ利權壓迫ノ意思無ク會社側ニ於テ其ノ義務ヲ遂行スル場合ニノミ事業ノ圓滑ナル遂行ヲ爲シ得ヘシト申出テ居ル關係モアリ右議論ニ依リ進ムトキハ先方ヨリ妥協ノ途ヲ全ク閉塞スルコトトナルヘキニ付會社側ニ於テ事業ノ繼續遂行ヲ企圖スルニ於テハ我方トシテモ飽迄會社ヲシテ利契及蘇聯法規ヲ遵守セシムルノ趣旨ヲ蘇側ニ表明スルト共ニ具體的ノ不法壓迫ニ付テ先方ノ注意ヲ喚起シ之ヲ矯正セシムルノ立場ヲ取ラルル事適當ナリト思考セラル本件電報ハ平文トナリ居リ其ノ儘傳達スヘキ御趣旨ト考フルモ右ノ諸點ニ就

（日本標準規格B5）

E-1704

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

テハ影響甚大ナルモノアリト認メラルルニ付特ニ御再考相仰度ク別電第一〇二六號具體的疑義ニ對スル回答ト共ニ至急何分ノ儀御回電相成度シ

（了）

外務省

（日本標準規格B5）

電信課長

大臣

次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

寫送先

分類E4.2.2.2

昭和14　三五一三七　略　莫斯科　十月四日前發
本省　四日後着　歐

野村外務大臣

第一三五三號

貴電第五九九號ニ關シ（北樺石炭石油會社ノ越年勞働者ニ關スル件）

三日七田ヲシテ「ツアラブキン」ニ對シ御來示ノ趣旨申入レシメタル處「ツア」ハ前回御申入（往電第一二二六號）ハ直ニ燃料部ニ傳達シ置キタルカ今明日中ニ同部ヨリ高毛禮氏ニ對シ回答ヲ與フル旨通報ヲ受ケ居ルニ付具體的ノ事ハ右ニテ御承知アリタシト述ヘタルニ付七田ハ本件越年人員問題ニ付テハ高毛禮ト燃料部トノ間ニ目下交渉シ居リ同時ニ現地ニ於テモ國契及官憲命令實施ノ爲必要ナル人

外務省

帝国ノ対蘇利权問題雑件

E-1704

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

員ノ決定ニ付話合ヲ進メ居ルモ未タ話合付カス而モ航海期及在留從業者ノ滯留期間ノ關係上遷延ヲ許ササル事態ニ立到リタルヲ以テ石炭、石油利權共ニ從來ノ要望ノ大部ヲ撤回シ來年迄事業ヲ最小限度ニ繼續スル爲絶對必要ノ人員トシテ本日自分ノ申述ヘタル越年人員ノ申請ヲ爲シ居ル次第ニ付許可アル樣當該官憲ニ斡旋アリタシト述ヘタルニ對シ「ツア」ハ外務部トシテ他ノ所管事項ニ介入ハ出來サルモ本日申入ノ次第ハ更ニ燃料部ニ傳達スヘシト答ヘタル趣ナリ

（了）

外務省

極秘

電信課長

大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

寫送先

E4,2,2,2

昭和14　四二一四二　（暗）　哈爾賓　十一月三十日後發　歐
本省　三十日夜着

野村外務大臣

第三三六號（極祕）

本官發滿宛電報

第三〇〇號

A情報

北樺太問題ニ關シ十一月二十三日莫斯科外務人民委員部發在日蘇聯邦大使宛電報要領

『日本ノ經濟計畫實現ノ爲ニ日本企業ニ依ル樺太ノ鑛物資源ノ利用ヲ抑制セントスル我方ノ根本的態度ニハ何等ノ變更ヲナシ得サルモ

帝国ノ対露利権問題件

外務省

E-1704

00 19

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

我方トシテハ北樺太問題ニ關シ日本ニ多少ノ部分的讓歩ヲナス用意アリ

又日本企業ニ割當テラレタル地區ノ計畫的調査ハ蘇聯邦カ日本企業區域ニ關スル情報ヲ自由ニ入手シ得ルコトヲ條件トシテノミ許サルヘキモノナリ從來日本ノ一部企業並ニ勞働者ニ課セラレタル虐罰ハ今後現行規定及蘇側官憲ノ命令ヲ日本側ニ於テ遵守スル場合ニ於テノミ免セラルヘク又日本勞働者ノ入植ハ條約ノ範圍内ニ於テノミ許可シ得ヘシ

又日本企業ニ對スル蘇側ノ行爲ノ「ゼスチヤー」トシテ日本企業側ニ對スル蘇聯邦勞働者ノ割當數ヲ增加シ得ルモ右ハ生産力カ極度ニ擴充セラレサル範圍内ニ止ムヘキモノナリ又蘇聯邦ハ現行規定ノ範

外務省

圍内ニ於テ勞働省ノ安全保障ノ爲日本企業ノ設備ノ整備及生産力ノ擴充並ニ衛生設備ヲ要求スルモノナリ

右蘇聯邦ノ好意アル行動ハ在日蘇聯機關及蘇聯邦企業ニ對スル日本官憲ノ好意アル關係ヲ生スルモノト豫想ス』

大臣ヘ轉電セリ

外務省

E-1704

0020

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

外電秘第二六五號　昭和十五年四月九日

北海道廳長官　戸塚九一郎

内務大臣　児玉秀雄殿
外務大臣　有田八郎殿
陸軍大臣　畑俊六殿
海軍大臣　吉田善吾殿
商工大臣　藤原銀次郎殿
拓務大臣　小磯國昭殿
各廳府縣長官殿
大政翼賛部司令官殿
内閣情報部長殿
右田部隊長殿
上野部隊長殿
北愛新俊義事長殿
加川憲兵隊長殿

帝国ノ対露利権問題ニ関スル件

分類F6.2.2.2

昭和十四年度邦人経営企業ヲ通ジテ観タル北樺太ノ諸状況ニ関スル件

昭和十四年中北樺太石油会社及土威鉱業所企業ヲ通ジテ観タル北樺太ノ諸状況ニ就キ蘇聯ノ対日状勢左記ノ通ニシテ

一、最近ノ調査ニ依リ凡ソ埋蔵量ニ優順ト謂ヘラル北樺太石油企業ハ時局柄北樺太西海岸石炭利権ト共ニ権益擁護ニ方金ノ努力ヲ拂ヒツヽアリト雖モ蘇聯ノ之ガ企業ニ対スル不当圧迫ハ日支事変勃発以来其ノ度ヲ加ヘ昭和十二年ヨリ五ヶ年間北樺太東海岸一千平方粁里ニ亙ル石油試掘ニ関シ蘇聯トノ細目協定ヲ締結シ五井ハ試掘ニ着手セント シタルモ日蘇関係ノ紫迫化ハ之ガ計画ヲ不能ニ帰セシメ現

E-1704
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

在オムス及「ジョンブリー」ノ二ヶ所ニ於テ採油スルノミニテ最モ優良ナル原油ヲ産シ出スルモノハ此地方ハ蘇側ノ妨害ニ依リ採油不可能從ツテ産出量激減シ莫大ノ損害ヲ蒙リ居リ

二、北樺太鉱業株式会社（石炭）土威鉱業所ニ於ケル企業ハ石油企業ト共ニ蘇聯ノ妨害ニ遭ヒ諸物資ノ輸入制限乃至禁止主要食糧品ノ配給禁止及送廃棄ヲ命ジ或ハ作業計画ノ妨害等枚挙ニ暇アラズ越エテハ露語練達者ノ退去ヲ策シ或ハ「スパイ」ニ利用セントスルアリ事業成績全ク挙ラズ幸ニシテ鉱業所発電所用暖房其他自家用トシテ充タスニ過ギザル状況ナリ

一、北樺太石油会社関係

(一)事業所々在地及名称

東京市麹町区九段内三丁目四番地

北樺太石油株式会社

(二)事業種別及事業主名

石油採取事業

取締役所社長　左近司政三

(三)資本金　貳千万円

(四)邦人渡航者ノ状況

	小樽ヨリ渡航者	其他ヨリ渡航者	合計
往航	四二七名	五八五名	一〇一二名
復航	二九二〃		二九二〃
計	七一九〃	五八五〃	一三〇四〃

外ニ昭和十四年十月十六日小樽発出航「オハ」ニ向ケタルモノ

E-1704

0022

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八、神ニ於テ遭難セル共同光船株式会社所有沼山丸船内仲仕二名ハ其ノ儘オハニ於テ稼働スルモノナリ

(五) 邦人渡航者及帰来者ノ職業別人員

(1) 渡航者

社員	雇員其他	労務者	合計	備考
六一	二	三五九	五	四二七

(2) 帰還者

社員	雇員其他	労務者	合計	備考
八六	三	一八七	一八六	二九二

(3) 残存者ノ職業別人員（昭和十三年十二月三十一日現在）

地域別 ＼ 種別	邦人			露人			合計		
	職員	労務者	計	職員	労務者	計	職員	労務者	計
オハ	一三一	四一五	五七二	九	四三	五三	一四〇	四五八	五九八
エハビ	九	四三	五三	八	八	八	一七	五一	六〇
クチヤド ラニー		二	二						
ボロタイ		四	四		四	四		八	八
モヤイオ		五	五		四	四		九	九
カタヤグリ	四〇	一〇一	一四一		一〇	一〇	四〇	二一	一五一
コンング		三	三		四	四		七	七
合計	一八〇	五九九	七七九	九七二	九七二	一八〇	一七五	一七五	一七五一

外ニ沼山丸船員四八名（社員待遇）ト合ハ仲仕二三名アリ

(六) 貨物送込数量

E-1704
0023
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	小樽港関係	其他関係	合計	備考
送荷	四九九五四噸	二一〇、九八五噸	六一〇、九三九	
積炭	二四三三七五噸			上記中乾山丸ニテ不成分一〇一噸ヲ含ム

(七) 本年度渡航者ノ取締状況

大部分ノ渡航者ハ小樽港ヨリ無船スルヲ例トシ本年モ丸面ニ亘リ社船(傭船ヲモ含ム)ヲ往復セシメ之等ノ船舶ニ乗船スル者ニ対シテハ身体所持品等ニ厳重ナル検索的査察ヲ実施シタルガ別段怪疑ノ点無ク防諜上ノ見地ヨリ蘇聯側ノ検索方法モ考慮シタル為メ現地上陸ニ際シ別段ナル事故発生ヲ見ザリシ由ナリ

(八) 本年度渡航拒否者

昭和十四年十二月十三日出港社船第六次乾山丸ニ乗船シ今月十六日大小港ニ到着シ上陸セントシタルニ電報査証不可ナリトノ理由ノモトニ左記六名ハ拒否セラレ一旦帰航スル事トシ内三名ハ断念シ残三名ハ正式査証ヲ得再度渡航スル事トナリ遭難船怡山丸ノ救助ニ向ハントスル乾山丸ニ乗船シ十一月七日樺太大泊ヲ出帆シタルモ流氷、悪気流、吹雪ノ為メ遂ニオハ〳〵港ヲ断念スル事トナリ結局六名ハ本社ニ帰還ノ止ムヲ無キニ至リタリ

社員

阿部卓蔵
菅野勘一
石井領三郎
矢島可薫
早野武夫

E-1704
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

中村宗悦

(九) 賃金支拂高（一ヶ年分）

恰も九遭難に依り新に予定より増加スル、要アリタルガ其ノ額不明ノ為詳細ナラズ

(一〇) オハ鉱業所其他に対スル蘇聯ノ圧迫状況

(1) 物資輸送に対スル圧迫状況

此種圧迫ノ第一ハ物資輸送量ノ制限シテ今在ハ蘇側労働組合トノ間に締結サレタル団体契約に基キ現地に於ケル日露人従業員及其ノ家族員ノ食料及日用物資ヲ実費ヲ以テ供給スルコトナリ居レルヲ以テ今在ハ之ガ実行ノ為必要ナル物資ヲ支障ナク現地に輸入シ来リタルガ聯当局ハ今在ノ所要物資現地輸入ノ申請に対シ不法にも右種ヲ制限シ数量に大削減ヲ加ヘ今在申請通リノ輸入許可ヲ与ヘズ其ノ結果現地に於テハ物資ノ不足ヲ生シ供給に支障ヲ来シ円滑ナル作業ノ遂行ヲ妨ゲラルニ至リタリ然モソ聯当局ハ斯ル事態ノ責任ヲ今在に負ハセントシ露人従業員ノ右に基ク損害賠償ヲ要求シ或ハ又現地に於テ責任ノ地位にアル幹部職員ヲ聯法規に依リ裁判に附スル等無暴ノ限リヲ盡セリ

而シテ斯ル圧迫ハ例年為シ来タリタルモ特に本年ハ甚シク単に従業員に供給販賣スル日常物資ナルノミナラズ実際作業上必要ナル資材被服機器類に迄モ及ビ作業遂行に大ナル支障ヲ来シタリ

物資輸送に関スル圧迫ノ第二ハ輸送船舶ノ支所寄港

E-1704
0025
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

問題ニシテ会社並華太ニ於ケル作業地ハ其ノ本部タリ
オルノミナラズ同地ヲ最北トシ南ニ向ヒ数ケ所ニ支鉱場
ヲ有シ之等支所ニ資材日常物資労働者等ノ送込ヲ
必要ト為スモ近年ソ聯当局ハ会社ノ之等支鉱場所在
地点ガ不開港場ナルノ故ヲ以テ会社船舶ノ支所寄港
ヲ容易ニ許可セズ本年ノ如キハ航海期ノ半頃ニ至リ漸
ク本件ノ解決ヲミタル状態ニシテ航海期間タル六月ヨ
リ十月迄ノ約五ヶ月間中九月以降ノ海上ハ時化勝且ツ
海上荷役可能ナルハ一ヶ月ノ内十日位ヲ算スル状態デアル
故ニ此短期間ニ現地鉱業ニ過ギズ其ノ間会社所要一
ケ年分ノ物資輸送荷役ヲ為サザルベカラズ右妨害ニ
依リ時機ヲ失スル事屢々ニシテ企業経営ニ一大支障
ヲ来セリ

(6)

本年カタングリンエハビノ如キ支所ガ例令一時的ニモセヨ作業
ヲ休止スルノ止ムナキ至リタルハ前述ノ如ク物資輸送ニ
対スルソ側ノ圧迫ガ直接原因ヲナシ居レリ

(2) 現地線業ニ対スル圧迫状況

現地線業ニ対スル蘇聯ノ圧迫ノ最大ナルハ労働力提
供ノ拒否ニシテ蘇側ハ契約ニ依ル露人労働力供給義
務履行ヲ廻避スル種々ノ手段ヲ講ジ来リタルガ本年ハ
言ヲ左右ニシテ会社ノ申込ニ應ゼザルノミナラズ日本人
労働者ノ現地送込ニ対シテモ員数ヲ甚シク削減シ
且ツ入国査証ノ下附ヲ故意ニ遷延シ会社事業経営
ニ大打撃ヲ與ヘタリカフルニ試掘作業ヲ完了シ企業

E-1704
0026
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

價値十分ナルコト確認サレタルニ拘ラズ鉄鋼ハ即チ工ハビ支
所鉱場ニ於ケル採掘カタヒクリ支所ニ於ケル坑井ノ掘鑿及
同支所ヨリ日本ヘノ原油搬出ニ必要ナル海底送油管ノ敷
設等今社ノ重要作業ニ対シ何等理由ヲ明示スルコトナク之
ヲ許可セズ其他日常作業ニ関スル諸々ノ圧迫ハ一々枚挙ニ
遑ナキ状態ナリ

(十) 天候気象ノ事業ニ及ボス影響

(イ) 物資輸送ニ及セル影響

日本ト北樺太現地間ノ航海期間ハ前記ノ如ク通常六
月ヨリ十月迄ノ約五ヶ月ナルガ海上比較的静穏ナル八六
月ヨリ八月ニ至ル約三ヶ月ニシテ此間ト雖モ風向ノ如何
ニヨッテ海上波浪高ク荷役作業不可能ナル故少カラズ

(ロ)

入港船舶ノ沖出シ避難ノ余儀ナキ場合多クアリ
十月ニアリテハ本格的ノ風雪ノ候トナリ寒気厳シク
海上作業ハ危険ヲ加フルヲ以テ絶対必要ノ場合ニ限ラ
レ居ルモ本年十一月ニ於テ猶物資輸送荷役ヲ強行ス
ルノ已ムナキニ至リタルハ蘇聯ノ圧迫ニ依ル輸送妨害其ノ因
ヲ為シ終航船舶ハ北カ沖出シ避難中遭難シタガ救助
及交替切場ヲ邦人従業員送還ノ為メ特ニ代船ヲ急派
シ砕氷艦ノ出動ヲセシメ一大事ヲ惹起セリ

(ハ) 鉱業上ニ及セル影響

現地ノ気候ハ春秋トヲッベキ季節ハ極メテ短ク夏ヨリ直
チニ冬ニ移ルカノ如キ感アリ即チ六月ヨリ九月迄ハ夏ニシテ
トラックベク現地作業上最モ貴重ナル時期ニシテ所有建

E-1704
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

設的作業ハ尋ヲ此ノ期間ニ遂行サレツツアリテ九月下旬或ハ
遅クモ十月早々ニハ降雪ヲ見ルニ至リ下旬トモナラバ既ニ
積雪ヲ見此頃ヨリ四月迄ハ完全ニ冬季ニシテ寒気ハ零
下十数度ヨリ三十度ニモ及ビ時ニ暴風雪ノ襲来アリ
建築基礎的作業ハ全ク不可能ナリ防寒服装ヲ着用
行ハル、日常ノ屋外作業ニ於テモ晝間ノ労働時間ガ短
キニカヘ採暖休憩ノ時ヲ要スルノミナラズ寒気風雪ノ酷シ
キ為全然屋外作業ヲ休止スル已ムナキ場合アリ冬季ニ於
テ天候気象ノ繰業ニ及ボス影響ハ甚大ナリ
然レドモ採油掘鑿ノ主体作業ハ勿論鉱場運輸ノ為
ニ必要ナル一般ノ作業ハ全然休止スルコトナク強行サレルモ
新側ノ圧迫甚シキモノアリ企業運営上致命的影響ヲ受
ケタリ

(ニ) 終局ヨリ見タル本年度ノ業績及将来ヘノ企図
一触即発ノ危機ヲ孕ミバレタル近年ノ日蘇関係閣係ハ我
対ソ利権企業ニ甚大ナル影響ヲ與ヘ利権奪還ヲ意図ス
ルソ聯ノ今迄ニ対スル圧迫ハ年々如重サレ本年ノ如キハ我企
業トシテハ既ニ之以上耐ヘ忍ビヲ得ザル迄ニ立至リタルモ同
地従業員ノ非常時局ヲ認識シ隠忍自重以テ権益ヲ死守
シ来リタル状態ナリ
本年度ノ側ノ基本的重要問題ニ対スル無策極端ナル圧
迫現地繰業上ニ於ケル不当不法ナル措置等ハ当社ノ蒙ル
打撃ハ実ニ甚大ニシテ大ビ鉱場ノ採掘カタングリ鉱場
原油ノ搬出、右ニ鉱場ノ冬季臨時休止オハカタングリ鉱場

E-1704
0028
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

場ニ於ケル掘鑿探油ノ抑圧等直接生産関係ニ於テ
今社事業計画ノ大半ヲ無為ニ終ラシメタルノミナラズ終能
切揚船怡山丸ノ遭難ノ如キ大事ヲ惹起セシムルニ至リ之等
ハ全ク会社ノ業績上ニ現レタル表面的重大結果ナルガ尚ソ
側ノ邦人従業員ニ対スル不当不法ナル逮捕裁判其他
及月敵視的空気ガ現地従業ニ及ボシタル影響亦決
シテ尠カラズ

(十三)
(イ)北八地方ニ於ケルソ聯ノ軍備並警備状況
北樺太現地附近ノ軍備及警備状況ニ就テハオハニ於テハ相当
広範囲ノ要塞地帯ヲ設定シ今社従業員ノ利権区域外立
入リヲ禁止シ警戒厳重ナル為駐屯ノ兵力軍事施設等詳
細ヲ知ルヲ得ザルモ兵力ハ二三年前ヨリ漸次増大サレ殊ニ本
年満蒙国境事件当時ハ相当数大陸方面ヨリ派遣サレ
又現地ニ於テモ予備補充兵ノ召集訓練モ頻々ト行ハレ又軍
需資材、機器類ノ輸入活潑トナリ兵營トーチカ等ノ造
築等モ行ハレツヽアル模様ナリ

(ロ)共産主義宣伝ノ状況
昭和七、八年頃ハ極端ナル思想宣伝ヲ為シタルモ昨今ハ之
ヲ止メ専ラ国内民心ヲシテ共産主義国ハ斯クモ秀レタル
国ナリトノ観念ヲ普及スルニ吸々タルモノアリ
従ツテスターリンヲ英雄的独裁者トシテ映画又ハ絵画ビ
ラ等ニテ宣伝シ居レルガ一方此ノ状況ヲ対外的ニ漏洩スル
ヲ虞レ印刷物モ厳重ニ検閲海外ノ発送ヲ阻止シ居レリ

E-1704
0029
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二 土成工業所關係

事務所ノ在地及名稱

本社 東京市麹町區丸ノ内二丁目二番地

九七七七階七一〇坪

鑛業所 北樺太土成鑛業株式會社

北樺太土成鉱業株式會社土成鉱業所

(二) 事業種別及事業主名

石炭採掘

北樺太鉱業株式會社

取締役會長 三井米松

(三) 資本金 一千萬圓

(四) 昭和十四年度邦人渡航者狀況

渡航者職業別人員(並ニ家族)明細

社員	社員家族	勞務者	勞務者家族	総計
一三名		一三六名	六名	一五五名

註 社員十三名中ニ三廿會長西原常務ヲ含ム

(五) 昭和十四年度邦人帰還者狀況

帰還者職別人員並ニ家族明細

社員	社員家族	勞務者	勞務者家族	総計
九名	三名	二四名	九名	四五名

註 社員九名中三廿會長西原常務ヲ含ム

中途帰還者ノ帰還事由ハ社員ハ交代轉勤休暇勞務者ハ総テ依願退職又ハ休暇

E-1704

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六、傷病ニ依リ退職者又ハ死亡者事業所ノ帰還セル者ナレ

昭和十四年度帰還者出身府縣別表

出身府縣 ＼ 職業別	社員	雇員	労働者	社員家族	雇員家族	労働者家族	合計
北海道	三						
青森			一			二	六
東京	二						一
千葉		一					二
山梨	一						二
福井	二						一
宮川							一

(六)

残存者職業別人員(家族)明細(昭和十四年十二月百現在)

廣島	一						
香川			一				
福岡			二	三			
佐賀	一	一	五		六		九
長崎			一			一	一
合計	九	二	二	三	九	四五	

社員	社員家族	労務者	労務者家族	総計
二六名	五名	一五五名	一四名	二〇〇名

E-1704

003

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

残存者ノ職業別人員（昭和十四年末現在）

出身縣別＼種別	職業別人員 社員	雇員	勞働者	社員及雇員家族	勞働者家族	計
秋田						
青森	二		二八			三〇
岩手	一					一
山形	一		一		五	七
宮城	一					
福島	一					
新潟	一		二			二
栃木	一					一
群馬						
埼玉						
千葉						
東京	二	一				三
山梨	一					
静岡	一					
福井	一					
石川	八					
廣島	二					
福岡	四					
佐賀	二	四	一一	二	三	一二
大分	一		一			一
計	二六	七	一四八	五	一四	二〇〇

E-1704
0032
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(七) 賃銀調査業別（社員雇員其他勞務者ノ別）

(イ) 社員（一ヶ年ノ給料手當最高、最低）

最高 九〇〇〇圓 最低 一五〇〇圓

(ロ) 雇員（助手）

最高 一八〇〇圓 最低 一二〇〇圓

(ハ) 勞務者賃銀率

最高日給 五圓 最低 三圓二十五錢

（本ニ休暇手當一ヶ年ニ對シ二週間分支給、時間外休日稼働ノ手當ヲ別ニ支給ス）

註 從業員勞務者ノ總テニ對シ住宅、炭水、煖房、浴場、醫療等無償提供ス

(八) 使用船舶別狀況

船類	船種	船名	積荷	品名	噸数	小樽入港 月	小樽入港 日	小樽出港 月	小樽出港 日
一	總噸船舶	第六丸	五	小麦粉野菜馬糧外	約一〇〇	五	一一	五	一二
二	〃	〃	六	〃	一一〇	六	一二	六	一六
三	〃	〃	七	白米小麦粉馬糧長靴外	一一二〇	七	八	七	八
四	〃	〃	七	小麦粉馬糧野菜外	一一〇	七	二六	八	二九
五	〃	〃	八	馬糧セメントゴム長靴外	九九	八	四	八	一八
六	〃	〃	八	小麦粉雷管類外	一一〇	八	一六	八	二九
七	〃	〃	八	野菜食用油脂類外	一一〇三	八	二六	九	一一
八	〃	〃	九	馬鈴薯馬糧外	一一〇	九	七	九	一一
九	〃	〃	九	全石	45	九	19	九	20
一〇	〃	〃	一〇	馬鈴薯雷管類外	45	一〇	24	一〇	26
一一	〃	〃	一〇	馬鈴薯長靴外	六八	一〇	三	一〇	四
一二	〃	〃	一〇	馬鈴薯野菜他雷管類	六一	一〇	一三	一〇	七五
一三	汽船	神功丸		合計	三七六	一一	二一	一一	一四
				小樽分	一三六八				
				七眞岡分	70				
				計	一四五八				

註 算用数字ハ眞岡分

(九) 聯領事館ニ於ケル査証狀況

(イ) 昭和十四年度渡航査證下附申請者一七六名

E-1704
0033
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内譯

蘇聯大使館領事部至自　四〇名
在函館蘇聯領事館至自　一三六名

(ロ) 査證申請後事故ニ依リ申請取消セル者　三名
(ハ) 査證許可アリタル者　一六三名
(ニ) 査證ヲ拒否セラレタル者　八名
(ホ) 未ダニ許可ノ通知ナキ者　二名

註 (ロ)(ニ)(ホ)ハ十六、十七、十八號ニ於テ内譯ヲ記セリ

(ヘ) 蘇聯領事館ニ於ケル査證ノ種別金額

査證料　邦貨換算概算ハ[illegible]アリ

往復査證（一一〇留）　七七圓

（往復査證ニテ入國セル場合ニテモ出國ニ際シテハ査證料五〇、五〇徴收サル）

（三五留）　三八圓五十錢

外ニ領事館ニテ取扱フ査證ノ種類次ノ如シ

數次往復査證（三三〇留）通過査證（五五留）

團体査證（二人ニ留五、五〇）公用査證（無料）

商務館ノ物資送狀ノ査證（輪入許可）、

料金徴收セズ

(二) 旅券査証ヲ受ケタル者ノ數（査證件數）

(一) 往復査證（蘇聯大使館領事部函館出張所）

領事館ニ納入）

數次旅券　一名　七七圓

普通旅券　一名　七七圓

E-1704
0034
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(二)入國査證（蘇聯大使館領事部、函館蘇聯領事館ニ納入）

普通旅券　一七名　六五四圓五十錢

移民旅券　一三五名　五一九七圓五十錢

(三)出國査證（サガレン内務部旅券課ニ留ニテ納入）

帰還者四五名中査證ヲ受ケタル者

三二名　一七六留（一通ヨリ五五留）

註　居住證手續法遠及ニ依リ強制退去処分ヲ受ケタル者四名　往復査證ノ者二名

家族中十六歳未満ノ者七名ハ査證料ヲ徴收サレズ

(二)帝國政府ノ旅券發給手數料

普通旅券　一通ニ付　一五圓

數次旅券　〃　二五圓

移民旅券　〃　五圓

(三)植物檢査ノ健康證明ノ査證料面數

證明査證料（露語ノ飜譯證明ニ対スル證明料）

一通　二三圓十錢　一三面飜訳證明　二三通

其他査證料ニ付赤十字費ノ徴收及旅券トノ関係

從来ハ入國査證料ノ一〇%ヲ赤十字費トシテ徴收セルモ昨年ヨリ蘇側ニテ入國査證料ヲ五五留ニ値上シ赤十字費ハ徴收取止メタリ

E-1704

0035

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(四)現地ノ借區料及ビ鉱業金報償炭ノ取扱

準ノ稅

昭和十三年度分單一稅 一四八四圓七四

昭和十四年十一月十日鉱業許可ヲ得タルモ

バンク支店財務人員委員部ニ送金セリ

報償炭

昭和十三年度出炭高五、二三〇瓩(蘇側ノ圧迫

ニ依リ斯ク出炭出来タニ對スル五%ノ二六一瓩

五カ報償炭ナルモ十一年度ニ於テ報償炭

ノ引渡ヲナシ居レルヲ以テ本期ニハ現物引

渡ヲ要セザリシ

(五)昭和十四年十月渡航阻拒セラレタル者

(六)陸軍ニ請願後手続ニ依リ申請取消ヲナセル者

三名ノ氏名左記通リ

氏名	年令	職業	住所	取調理由
山賀武男	二八	官吏	福岡縣糸島郡糸島中學	退職
賀野力雄	二八	〃	北海道夕張郡夕張町字夕張	出征
小林大助	二八	〃	〃	病氣

(七)査證下附ヲ拒絶セラレタル者八名内譯左記通リ

氏名	年令	職業	住所
粕見富次	五四	社員	東京市上目黒六ノ一八二三
尾島周司	三九	〃	東京市荏原區戸越町一八
浅田浜吉	三九	坑夫小頭	北海道夕張郡夕張町字夕張

E-1704

0036

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

田畑太重	四三	社員事務	埼玉縣浦和市岸町八ノ二〇八
田口清水	二八	〃	東京市中野区櫻山町三五中村方
宮島忠	五五	〃	北海道札幌市南五條西七ノ三九七
木林五郎	三一	〃電氣技師	長野縣下高井郡上木島村
大川昌男	二四	〃技手	東京市世田谷区玉川瀬田町一ノ五三

(八) 米ダニ許可通知ナキ者 左記ニ名

氏名	年令	職業	住所
土橋榮松	三三	労働者	小樽市花園町一ノ一八
澤田キヨ	三四	社員家族	室蘭市本町四五

(九) 昭和十四年度事業別概況

(イ) 坑内作業

昭和十四年度ノ事業復旧計畫ニヨリ休止中ノ各坑ノ稼行ヲ復活シ所定ノ產炭採掘ノ予定ナリシモ蘇聯側ノ右計畫實施阻止ニ遭ヒ所要勞務者ノ雇入所要器材ノ輸入等計畫ノ根本ニ齟齬ヲ來シ結局實行不能トナリタリ

探炭作業ハ前年ト同樣第七坑ニ於ケル自家用採掘ヲ主トシ其ノ他ノ側鉱山監督署ノ命令ニ依ル第六第八三股坑ノ坑道補修補強及坑内排水等維持作業ヲ行ヒタルニ過ギズ

E-1704
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(ロ)積込作業

内地向積出炭皆無ナルヲ以テ本作業ナシ

(ハ)坑内諸作業

發電所ノ運転既設諸設備宿舎等ノ保全修理作業ヲ継續セルノミニテ何等新規起業工事ナシ

(ニ)北樺太鉱業株式會社ニ對スル蘇側ノ圧迫状況

ノ企業ニ必要ナル諸物資輸入ノ制限又ハ禁止

一日中輸入品目録ヲ提出許可ヲ申請セルモ

延引ニ延引ヲ重ネ五月二十四日漸ク申請ノ三〇%ヲ許可サレ次イテ事業用品ニ付ハ八月二十九日ニ至リ中數品目ヲ削減シタルノミニテ大体當方申請通リ許可シ来リタルモ時期遅レタル為小形船ヲ以テ逐次輸送シ居レル會社トシテハ積送ニ多大ノ不都合ヲ来シ遂ニ一部ハ流氷ノ為荷役不能ニ陥リタリ

(註)前記輸入品トハ主トシテ鉱業所職員勞働者及其ノ家族ニ配給スル食料衣類其ノ他ノ日用品ヲ謂ヒ事業用品トハ橡行ニ必要ナル諸材料並ニ機械類等ヲ称ス

(ホ)輸入セル日用品ノ販賣値段ノ當値段

日用品販賣値段ハ、側鉱山署長ノ認可ヲ要スル処、鉱山署長ハ何等ノ根據ヲ示サズ最近數年機會アル毎ニ極メテ不當ナル値下ヲ行ヒ認可値ニ販賣ニ不同意ナラ日本ニ返送スベキ事ヲ強要ス試ミニ不當値下ノ實例ノ二三ヲ擧グレバ左ノ如シ

番号	品目	數量	認可値	左進前認可値
一	二枚續毛布	一枚ニ付	八円七三	三三円八〇〇
二	羅紗	一米	二、三一	一四、〇〇
三	サージ	仝	一、二〇	一二、〇〇
四	一等麦粉製パン	一瓶ニ付	二一	三二
五	両切巻煙草バット	十本入	〇一	一三
六	口付〃朝日	廿本入	〇二	二三
七	林檎	一瓶ニ付	一四	六五
八	ボックス長靴(上等)	一足〃	一二、七一	三五、〇〇
九	廿筒ポマード	日本ニテ五錢モノ	〇三	五六
一〇	三輪石鹸	一個ニ付	〇四	一二

3、主要食料品及物品ノ不當ナル配給禁止

大豆油、豚脂、アルガリン、塩漬玉菜、塩鱒等昨年ノ例ニ鑑ミ吟味シテ良質ノモノヲ積送シタルニ不拘蘇側一方的ノ分析ニ基キ標準規格ニ合致セズトシテ配給ヲ禁止

E-1704
0039
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

サレ返送又ハ廢棄ヲ命ゼラレタリ
又羅紗サージ等ハ品質良好ナルニモ拘ラズ
織方ガ蘇國人向ナラズ或ハ薄手ナリトシ
テ返送ヲ命ゼラレタリ
尓公正裁判ニヨル不當過大ナル罰金又ハ賠
償金ノ要求
昭和十四年三月以降十二月末迄僅ニ九ヶ月ノ罰金
賠償金等ノ合計ハ實ニ五十萬留ヲ突破セリ
其ノ賦課ノ根拠タルヤ不當極マルモノノミニ
シテ、一例ヲ擧グレバ蘇側官憲ノ勝手ナル
認定ニヨリ品質粗悪トシテ配給ヲ禁止サレ

(20)

タル洋服地其ノ他ノ布類馬鈴薯等ハ規定
ノ供給額ヲ給與セザリシコトヲ理由トシテ之
ヲ勞務者ガ蘇聯市場(既給價格ノ拾倍乃至
數拾倍)ニテ購入補塡セルモノト看做シ(事實
ハ然ラズ單ニ勞務者ガヨヨ少豐富ニ供給ヲ受
ケ得ザリシ程度)其損害賠償ヲ要求サレ之ニ
對スル抗辯ハ不當ナル一方的裁判ニヨリ會社
ノ敗訴トナルガ如キモノニシテ、品質ノ鑑定ハ鉱
山署ノ役員ニシテ損害賠償ノ要求ハ勞働者組
合ナルヲ以テ個々ノモノナリトハ云ヘ其ノ間常ニ
脈ノ連絡アル事想像セラル、其ノ他最近繫
中ノ問題ニハ勞務者ノ過怠ニヨリ標準額以

E-1704
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日用品ヲ供給シタルハ會社ノ密賣ナリト認
定シ其ノ供給品ニ対シ配給價格ノ数十倍
甚敷ハ百倍百廿倍ノ追徴金及罰金ヲ課
シ僅々數人分ニ對シ其金額壹萬五千
留ニ及ベル等ノ極端ナルモノアリ

5. 所要露人勞働者募集不能

本年度事業計畫ニ基キ所要露人勞働者
九〇〇名募集提供ニ付昭和十三年十二月
二十日ヨリサガレン鉱山監督署ヲ通じ五
月六日八日ノ三回ニ分テ募集送込ミヲ申
出ニ応ジタリ　後蘇聯側ノ要求ニ應じ

(21)

事業計畫以容其他諸資料ヲ提出シ物
資問題ト共ニ引續キ現地並ニ中央ニ於テ
交渉セルモ、事業計畫ノ不備收容宿舍ノ
不完全等根拠ナキ理由ニ籍口シ募集提
供ニ應ゼズ結局渡航終了期ニ至ルモ尚問
題ヲ解決セントスル誠意ヲ示サズ方ニ計画
セル復旧作業遂行ニ根本的齟齬ヲ来サレ
メンヲ全ク画餅ニ帰セシメタリ
蓋シ蘇側當事者ノ眞意ヲ付度スルニ事
業復旧ヲ喜バザル点以外蘇聯邦内國營
企業ニサヘ従業員不足ヲ告ゲ居リ到底利權
企業ニ迄供給スル余裕ヲ存セザルモ之ヲ告

E-1704
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

白スルヲ潔シトセザルニ在ルヲ推測ニ難カラザルモノアリ

6. 邦人勞働者ノ入國拒否

事業遂行ニ要スル邦人勞働者ノ入國ニ關シテモ露人勞働者ノ募集提供申込ト同樣昭和十三年十二月二十日ヨリサガレン鉱山署ヲ通ジ四百名ノ入國ヲ要請事業計畫ノ内容邦人勞働者ヲ必要トスベキ作業内容ノ説明等ノ諸資料ヲ提出シ現地並ニ中央ニテ接衝セルモ蘇側ハ前陳ノ如キ根據ナキ理由ヲ以テ許可セズ既ニ航海開始シ作業期ニ入レル今日ニ至ルナク問題ヲ外交々渉ニ移シ蘇側ニ嚴重督促セシメタル処八月十二日ニ至リ漸ク一部一五〇名ノ邦人ノ入國ヲ許可シ來レリ尓後残余ノ邦人ノ入國ヲ交渉セルモ殆ンド相手トナラズ為ニ本年ノ邦人ノ送込ハ豫定数ノ半数ニ足ラズ為モ入國許可ノ遷延ニ依リ予定計畫遂行ヲ全然不可能ニ陥ラシメタリ

7. 日本人ノ居住期限制限並ニ強制退去要求

鉱業所ニ渡航稼働中ノ勞務者ハ総テ作業遂行ニ必要ナル期間滞在スベキモノナルニ蘇聯側ハ一方的ニ之ガ居住期限ヲ六ケ月乃至一ケ年トシ

E-1704
0042
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

テ制限シ又既ニ無期限ヲ以テ入國居住シ居ル者ニ對シテモ蘇側ノ「好マシカラザル人物」ナリトカ等ノ理由ヲ附シ擅ニ居住期限ヲ制限シ期限至過後ハ之等ニ對シ強制退去ヲ強要シ、之ガ爲ニ送還ヲ命ゼラレタル者七十數名ニ上リタリ

然シテ海上結氷ノタメ終航船ニ右人夫乘船シ得ザリシ処、蘇側ハ陸路退去ヲ要求シ来リ目下尚折衝中ナリ

右蘇側ノ稱スル「好マシカラザル人物」トシテ挙ゲラレタルハ其ノ大部分ガ露語ニ練達ニ先方事情ニ通曉セル者ニシテ先方ヨリ見レバ煙タキ人物ナルベキモ會社ニ取リテハ必要欠クベカラザル從業員ナルヲ以テ企業遂行上飽ク迄居住權延期ヲ交渉中ナリ

8 スパイ強要

日本人中露語ヲ解スル者ニ對シスパイ強要ノ對日謀報ニ汲々タル實情ニ在リ左ニ一例ヲ示セバ

昭和十三年十二月十七日會社用度係金子三郎ハ物品配給中蘇聯邦人ノ一人ガ配給品ヲ盜ミタルヲ發見セルヲ以テ之ヲ押ヘタノ際ニ仏人ノ鼻ノ部分ニ金子ノ手ガ觸レタルヲ殴ホセリトシテ民警ニ訴ヘラレタル事件アリタルモ

E-1704
0043
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

當時ハ其ノ後トナリシモ其ノ後金子ハ用度係トシテ蘇聯邦官憲ニ書面ヲ提出セル際不用意ニモ其ノ書面中ニ誤ツテ自己ノサインシ入ノ白紙ヲ混入提出セルガ同用紙ハ「スパイ團」ノ手ニ入リ「スパイ團」ハ此ノ白紙ヲ利用シ「スパイ團」ニ加入セルニ付今後日本側情報偵知ニ努ムルコトヲ宣誓スト記入シ金子ニ對シ之ヲ示シ威嚇シテ日本ノ軍艦ハ何ソ必ニ露領沿岸ニ來テ居ルヤ現在土成ニ居ル幹部ハ全部日本ノ軍人ナラズヤ勞働者ニ義人軍人居ルヤ日本ニ飛行機ハ現在何台アリヤ等ノ國情ヲ尋ネラレタルモ金子ハ之ニ對シ返答セザリシニ「スパイ團」ハ金子ニ對シ「君等ノ行動ハ全部我等ハ知ツテ居ル今後如何ナル手段ニテモ國情偵知ニ努ムルカラ考ヘテ返答セヨ若シ「スパイ團」ハ入込ミタルコトヲ他人ニ洩ラシタル場合ハ即時入獄サセルゾ」トカ脅迫セリ尚邦人勞働者澤田義夫、中尾千代松ノ二名モ「スパイ團」加入ノ署名ヲ徵サレタルモ會社幹部ニ事情ヲ打明ケ以後彼等ノ呼出ニ應ゼザリシ「スパイ團」幹部ハ凡ユル手段ヲ講ジ金子ニ郎ニ着目画策シ元會社傭人露人タイピスト二十八歳位某(同人ハ其ノ後賄婦

E-1704
0044
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ニ轉業モノ）ト金子ガ懇意ナルヲ奇貨トシ
金女ガ七月下旬會社ヲ退社スルコトニ決
定セルヲ以テ右賄婦ハ平素懇意ナル理
由ノ許ニ金子ヲ晩餐ニ招キタリ金子
ハ「スパイ團」ノ計畫ト知ラズ御土産トシ
テサージズボン一足並ニ金四十留ヲ持參
金女宅ヲ訪問セル処露國酒其ノ他ヲ馳
走シ午後十時頃ニナリタルニ金女ハ今晩
ハ宿泊スル樣ニト勸メタルニヨリ金子ハ先
ニ一個ヨリ無キ寢台ニ入リタル処女ハ食器等
ヲ整理シ便所ニ行クト稱シ室外ニ出タルガ
其ノ際土産ニ持參セル物品及金員ハテー

ブルノ上ニ存置セルヲ以テ金子ハ不審ニ思
ヒ居リタルガ女ハ三分位ニテ戻リ来リ寢台
ノ側ニ来リテ手ニテ壁ヲ二回叩クト共ニ直
キ出シタリ之ト同時ニ室外ヨリ民警三人入
室シ金子ヲ民警事務所ニ拘引セリ
其ノ際前記蘇聯邦人政打ノ事件ニ関
聯化シ七月二十六日亜港地方裁判所ニ於テ
併合裁判アリ政打事件ニ付テハ事實無根
ヲ主張セルニ當時金子ノ事務ノ一部ヲ分
担シ居リタル露國人婦女ヲ證人トセルニ付キ
會社ノ出勤簿調査ノ結果金女ハ當日出勤
シ居ラザルヲ以テ事件ノアリタル當時公勤

E-1704
0045
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

セル露國人三人ヲ證人トシ一方的審理ノ結果改打セルモノナリトシテ懲役六ケ月ノ判決ノ言渡ヲ受ケ晩餐會ノ事件ハ婦女ヲ證人トセルニ婦女ハ自己ノ意ニ反シ入室セリト主張セルヲ以テ住居侵入罪トシテ懲役五年ノ判決言渡シアリ金子ハ之ヲ服トシテ八月二十六日控訴スルニ傍聽禁止ニテ裁判シ前審通ニ罪ニテ五年六ケ月判決アリテ現在軍港ノ刑務所ニ入獄中ナル李貴ヨリ防諜対策ノ重要性ヲ痛感セラル

(三) 天候氣象ノ影響

物資輸送ニ及ボセル影響

本年度終航船神功丸(十一月四日小樽出帆)ガ元成現場ニ七日到着セルモ革命祭日ニ當レルヲ以テ蘇側港務部ニテ九日迄受入ヲ為サズ為ニ荷役遅し其中十三日ヨリ荒天大時化トナリ洋上漂泊中流氷ニ遭遇シ十七日眞岡ニ避難後天候恢復ヲ待チ廿五日土成ニ再廻航セルモ海岸早ク氷ル結氷し連絡取レズ流氷ニタメ船体モ危険ニ瀕セルヲ以テ揚荷ヲ断念帰航セリ 夏季中ハ比較的順調ニ進捗セリ

操業上ニ及ボセル影響

E-1704
0046
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

本年航海終了期ニ際シ流氷並ニ海岸結氷
意外ニ早ク右ニ終航積荷モ其ノ一部ヲ陸
揚シ大部分ヲ積戻シタル結果作業上種々
ノ困難ヲ生ズベキコトハ予想セラルルモ一方
右ノ為蘇側ヨリ強制退去ヲ命ゼラレ居
ル邦人労務者七十七名ガ帰還不可能トナ
レルヲハテ越年ヲ余儀ナクセラルル結果
来年度ニ備フル諸種準備作業ニ付テ幾
分ノ効果アルベキヲ予想セラル

(三)終局ヨリ見タル本年度ノ業績及将来ヘノ企図
前掲ノ如ク露人労働者雇入不能ヨリ本人労
働者入國制限ニヨリ當初豫定シタル作業ニ
ハ手切着手スルヲ得ズ縮少後ノ企業維
持サヘ意ノ如クナラズ従ツテ本年度ニ於テハ
採炭作業ハ行ヘドモ其ノ産出炭ハ鉱業所
ノ發電所用炭暖房炊事用炭其ノ他ノ自家
用ヲ充タシ得ルニ過ギズシテ売出ノ石炭モ内
地ニ商ス事ヲ得ザリシナリ
然シテ今後共日蘇國交関係ヲ反映シテ
會社ニ對スル蘇側ノ法圧迫ニモ一進一退
アルベキモ全般的ニハ益々熾烈ヲ加フベク予
想サル

(三)従業員

E-1704
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日本人一七七名 ロシヤ人一二三名

計三〇〇名（昭和十四年十月一日現在）

(三四) 蘇聯邦官憲ノ配備及取締ノ狀況

(一) 内務人民委員（エヌカー・ペーデー）監視所々長ハ歴代中尉相當官デ現所長ハ更迭シタ事リデ氏名ハ判ラナイガ三十歳前後ト思ハレル男デアッテ所員ハ常ニ出入ガアッテ判然セザルモ二十名乃至三十名位ナリ

(二) 民警署出張所ハ長以下五名居リ常ニ交代デ會社鉱業地域ヲ中心トシテ巡回シテ居リ其ノ態度ハ戎邦人ノ保護ト云フヨリ監視ガ目的ト見ラレル

(三) 税關支所長ハトンヂーヲイチ當二十五年位一名ノミデ會社關係ノ船舶出入ノ場合トエスカーペーデート共ニ船内外ノ取締ニ從事スルモノデ取締ハ嚴重デアル

(四) 土威村會議長（村長）ハ一昨年迄會社ノ坑内デ採炭夫トシテ勞働シテ居タ「コーヂコフ」當四十年位デ温和ナ人物デ鉱業ニ關シ直接取締關係ナキモ何カト好意ヲ示シテ居ル 村會ハ我國ノ村役場ノ如ク徴税其他一般行政事務ヲ行フ

E-1704

0048

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(四)續業勞働委員會(ルトコム)議長ハ昨年ヨリ引續キグラーゾフ當四十五年位ニシテ奸惡ナ男デ會社事業ノ圧迫ハ主トシテ本人ノ策畧ニ依ルモノノ如ノデ勞働條件ノ無法ナ會社側ノ利ナル改正ヲナレ又ハ團体契約ヲ悪意ニ解シ之ハ中央政府ノ我國利權企業圧迫ノ方針ニ依ルモノト認メラレ會社ハ全人ノ更迭ヲ希望シテヰル

(五)支那事變發生以来極度ニ反感ヲ表明シ居リ現在デハ共産主義的教育ノ効果ガ現ハレ從来ヨリ漸次思想統一サレツツアル模様ニシテ事變報道ハ何レモ新聞ラヂオデ街頭ノ宣傳ヤ巷間ノ噂ハ無キモ何レモ日本軍ノ敗走ト支那軍殊ニ中國共産軍ノ勝ヲ誇大ニ報導シテ居ル

一般ノ生活状態ハ第二次産業計畫ノ進展ト共ニ物資等モ稍々潤澤ニナリツツアリ婦女子ノ服裝等モ昭和十一年頃ニ比較シテ大分良クナッテヰルガ大抵ハ人絹モノデ男ハ皆洋服ヤ靴ヲ用ヒテ居リ彼等ハ如何ニシタラモット良イ生活ガ出来ルカト云フコトヲ眞剣ニ考ヘテヰル模様デス

(六)邦人ニ對スル態度意嚮

E-1704
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

蘇聯邦人ハ個人トシテ交際スル際ハ大部分ノ者ハ親シミ好感ヲ持テルガ最近ハ態度ガ硬化シテ邦人社員勞働者ニ對シ會社使用人ノ藤聯邦人デモ常ニ反感的態度ニ出ル傾向アリ

支那事變ニ對シテモ日本ガ侵畧シテ居ルト云フコトヲ公然トミツテヰル　根本的ニ國家組織ガ違フ結果公的ニハ常ニ睨ミ合ツテ居ルトノ意識ヲ持ツテ居リ決シテ融和サレナイ

彼等ハ言論ノ自由ガ無イ為邦人ニ對シテハ公要以外ノ事ヲ口外シナイ樣デアル

(三)過激宣傳ノ狀況

昨年三月頃迄(土曜)ノ「ルトヨ」ニ邦人孫ノ「ア」勤務シテ居ノ宣傳員渡辺某ガ亞港ニ轉出シタ後任トシテ四月頃ノレツラコフ當三十年位ト云フレニングラードノ語學校日本語科ヲ卒業シタ男ガ着任シ全ク人ノ係ハ日本人勞働者指導員トナツテヰルガ特ニ宣傳ラシキ行為ガナク他ノ方面ニモ積極的ナ行動ガナイガ如何ナル計畫ガアルカ判ラナイケデ油斷ハ出來ナイ狀態ニアリ邦人社員勞働者等ハ成ル可ク同人ニ近付カザル樣ニ努メテ居ル　倶樂部ニハ邦文宣傳用パンフレツト等アルモ殆ンド讀ム者ナク邦人ニ對スル共産主義宣傳ハ目下何等效果ナシ

E-1704
0050
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

模様ナリ 昨年五月一日ノメーデーニハ全部デ五百名程動員サレ「エヌ、ゲーペーテー」ガ中心トナリ示威行進ヲ為シタルガ其ノスローガンハ全部露語ニテ邦人ニハ判明セザルモ支那事変ニ対スル日本ヲ強暴ナル侵略者トシテ宣傳中ノ趣ナリ

(六) 軍事的設備ノ状況

蘇聯邦ハ樺太ニ公然軍隊ヲ駐屯セシムルコトハ出来ナイ為エヌ、ゲー、ペー、テーノ名稱ニテ赤軍ト同一ノ組織ノ軍人ヲ各兵科ニ分チ北樺太全土ニ二個師団近ク常置シ亜港附近ノミデモ約五千人位駐屯ノ模様ニシテ最近日本ノ空軍ノ威力ヲ非常ニ恐レ空軍ノ拡充ニ狂奔シ居ルモノノ如ク昨年四月頃ヨリ亜港奥地森林地帯ニ飛行場ノ増設工事ニ着手シ居ル模様ナリ

土威ニハ軍事的設備ハ認メナイガ亜港ニハ軍隊兵器等ノ積卸スル様ナ場合ハ前日會社ニ対シエヌ、カー、ペー、テーヨリ會社ノ通船ヲ亜港ニ廻航ヲ禁止スル旨ノ示達アルヲ想像セラレ昨年中三度アリタリ

以上

E-1704

005

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

寫送先

分類E4,2,2,2

昭和15 一四二二九 略 莫斯科 五月二十三日前着 歐
有田外務大臣 本省 二十三日後着
東郷大使

第六七五號

往電第五五六號及「オハ」發本使宛電報第四三號ニ關シ二十二日七田ヨリ「ツアラブキン」ニ對シ右「オハ」電ノ次第ヲ述ヘ右ハ「ツア」ノ斡旋ヲ約シタル趣旨トモ反スルニ付前回申入ノ通リ「オハ」二百名土威六十一名ノ引續キ滯在許可アリタシト申入レタル處「ツア」ハ日本側希望ノ次第ハ更ニ當該官憲ニ取次クヘキカ自分ノ受ケ居ル報告ニ依レハ在「オハ」日本領事ハ本件滯在許可ハ既ニ中央ニ於テ決定セル如キ意味合ニテ外交代表ニ蘇側措置ノ變更

外務省

方ヲ申入レラレ居ル處自分ハ前回會談ニ於テ貴官ノ要望ノ取次方ヲ應諾セルニ過キス本件ノ終局的決定ハ石油部カ當業者ヨリ充分ノ說明ヲ聽取シタル上之ヲナシ結果高毛禮氏ニ通報スヘキ次第ニ付右ノ點誤解ナキ樣致度シト述ヘタルニ依リ七田ハ大使館ノ接到セル電報ニ依レハ多賀谷ハ本官ト貴下トノ會談ヲ其ノ儘通報シ居ルニ止マル如ク何レニスルモ本件未解決ノ此ノ際前記二百名ヲ來月十五日迄ニ送還スルカ如キコトナキ樣希望ニ堪ヘスト述ヘ置キタル趣ナリ

「オハ」ヘ轉電セリ

外務省

E-1704
0052
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣

次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

寫送先

分類 E 4.2.2.2

昭和15　一五一四五　暗　浦潮　五月三十一日前發　歐
本省　三十一日後着

有田外務大臣　宮川總領事

第二一六號（依頼報）

貴電第一〇八號（會社書類着否問合ノ件）ノ書類二十九日接到セリ

五日發ノ「クリエ」ニ託送ス（了）

帝國ノ対蘭印外交関係

外務省

外機密

電信課長

大臣

次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

寫送先

分類 E 4.2.2.2

昭和16　一九一一四　暗　莫斯科　七月五日後發　歐
本省　六日後着

松岡外務大臣　建川大使

第八五九號（依頼報）

北樺太石油及石炭社長ヘ吉良ヨリ

「ゴスバンク」閉鎖ノ氣配濃厚引上準備中依テ石油公金ノ大部分

三二〇〇弗ハ「オハ」石炭公金全部一九三四弗ハ亞港ヘ夫々七日

早朝電送スヘシ

尚暗號燒却セリ

外務省

E-1704

0053

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分類 E.4.2.2.

昭和十六年ニ於ケル北樺太利權關係諸問題

昭和十七年二月

交渉經緯概要

歐亞局第一課

目次

第一節　昭和十六年ニ於ケル北樺太利權ノ概況

第二節　北樺太石油會社、北樺太鑛業會社共通問題

第一款　事業計畫不認可

第二款　日「ソ」人勞務者傭入問題

第三款　配給品價格不當引下問題

第四款　物資不配給裁判事件

第五款　勞働團體契約制限延長問題

第六款　「ソ」聯邦向送貨資金送付問題

第三節　北樺太石油會社關係問題

第一款　原油償取特務艦ノ「オハー」入港問題

E-1704

0054

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二款　怡山丸救助問題
第三款　船舶ノ支所寄航問題
第四款　採油禁壓ヲ目的トセル不當命令及要求濫發問題
第五款　片山重役「オハ」滯在問題
第六款　石油試掘權期限延長問題

第四節　北樺太鑛業會社關係問題

第一款　木材沒收問題
第二款　關稅不當賦課問題
第三款　利權地域無斷使用問題
第四款　土威製材所復舊問題
第五款　「ソ」側滯納電燈料支拂問題

第五節　坂井組合關係問題

第一款　坂井組合石炭利權取消問題
第二款　眞島元坂井組合亞港出張所員ノ財產不法處分ニ對スル損害賠償要求問題

E-1704
0055
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一節　昭和十六年ニ於ケル北樺太利權ノ概況

北樺太ニ於ケル我石油石炭利權企業ニ對スル「ソ」側ノ壓迫ハ昭和十一年十一月ノ日獨防共協定以來頓ニ強化セラレ其ノ遣口ハ人的技術的、財政的ニ有ユル方面ヨリ組織的妨碍ヲ加ヘ事業經營ヲ不可能ナラシムルコトニ依リ利權回收ノ目的ヲ達セントスル魂膽ト解スル外ナキ實情ニテ日「ソ」基本條約義定書ニ依ル收益的經營ノ保障ハ一片ノ空文ト化スルニ至レリ之カ爲昭和十二年先ツ石炭利權會社ハ殆ント休止ニ近キ事業ノ大縮少ヲ行フノ止ムナキニ立到リ石油利權會社モ亦作業縮少ヲ餘儀ナクセラレ爾來兩會社共政府ヨリ絶大ナル財政的援助ヲ昭和十六年度利權確保資金ハ石油會社分六百四十一萬圓、石炭會社分百四十九萬圓）ヲ受ケテ辛シテ事業ヲ維持スルニ

過キサル如キ狀態ヲ續ケ居リ坂井組合ノ石炭利權ノ如キニ至リテハ「ソ」側ハ一方的通告ニ依リ同利權ヲ廢棄セルモノト看做シ現ニ當ニ同利權炭坑ヲ開發シツツアル有樣ナリ

而シテ昨年以來「ソ」側ノ現地官憲ノ壓迫ハ益々惡質苛酷ナリ殊ニ生産物ヲ多少ナリトモ本邦ヘ搬出シ居ル石油利權ニ對スル妨害ハ滅烈ヲ極メ其ノ存續ヲ愈々以テ困難ナラシムルニ至レリ

然ルニ過「ソ」開戰ヲ見ルニ及ヒ「ソ」側態度ハ敎少緩和セル模樣ニテ昭和十六年夏期ニ於テハ邦人送込、物資搬入、船舶ノ支那寄航等ノ諸問題ハ從來ノ如ク紛糾スルコトナクシテ一應解決シ稍愁眉ヲ開カラシムルモノアリト雖モ事業其ノ物ハ多年ノ壓迫ニ傷リ縮少ニ重ネテ既ニ遠迫狀態ニ陷リ僅カニ命脈ヲ保チ居ルニ過キサル實情ナ

E-1704
0056
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ルヲ以テ利權ノ保行ヲ完全ナラシムル様「ソ」側ヨリ強硬的除力ナキ限リ其ノ本格的立直リハ頗ル困難ト見ラレ居レリ

尚南利加會社現地從業員ハ昭和十六年十二月現在五四六名（石油關係者西六一名、石炭關係者八五名）ヲ算スル處此等邦人ニ對スル「ソ」官憲側ノ迫害（訴追、出國禁止、秦行等）ハ曾「ソ」開戦以來其ノ跡ヲ絶チ居ル候様ナリ

「ソ」側ノ壓迫則逃ノ通リナルヲ以テ南利加會社ノ成績ハ近年激退ノ一途ヲ辿リツツアル處石油會社昭和十五年度（自十五年四月至十六年三月）採油量ハ五七、三五七瓲ニシテ前年度ニ比シ約二七、〇〇〇瓲ヲ減少シ居リ又壓迫強化前ノ昭和十一年度ニ比スレハ實ニ三分ノ一以下ニ、即チ十二萬瓲以上ノ激減ナリ昭和十六年ニ入ルヤ採

油ニ對スル禁壓一層激化シ「オハ」ノ日産ハ一時五十瓲迄ニ低下シタルカ七月以來稍々回復シ現在百五十瓲ヲ上下シ居ル由ニテ此ノ調子ヲ以テスレハ昭和十六年度（自十六年四月至十七年三月）ノ採油量ハ四萬瓲位ノ見込ナリト云フ、同時ニ内地同原油産出量モ年々減少シ昭和十六年度ノ實績ハ二三、七四〇瓲ニシテ前年度ニ比シ約二萬ヲ減シ居レリ

次ニ石炭會社ハ昭和十二年以來休止ニ近キ事業縮少ヲ續ケ居リ昭和十一年度二十五萬瓲ニ達セル採炭量ハ爾來激減シ昭和十五年度（自十五年四月至十六年三月）ハ僅カ五、七五三瓲ヲ示シ十六年モ大体五、〇〇〇瓲内外ノ見當ナリ從テ内地ヘノ搬出除力ノ如キハ全然之ナキ次第ナリ

E-1704

0057

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

紛上ノ如キ狀態ニ在ル利權企業ニ對シ政府トシテハ「ソ」側ノ不當
壓迫ヲ排除シ利權事業ノ完全且圓滑ナル運營ヲ可能ナラシムル樣措
置スルコトヲ絶對必要ト認ムルヲ以テ別項記載ノ壓迫事項ニ付テハ
發生ノ都度在「ソ」大使館又ハ現地公館ヲシテ「ソ」側ニ嚴重ナル
抗議ヲ發セシメ極力利權者ノ正當ナル主張貫徹方折衝セシムルト共
ニ本省ニ於テモ必要ニ應ジ在京「ソ」諸大使館ヲ通シ「ソ」側ノ注
意ヲ喚起シ以テ本利權ノ擁護ニ努メツツアル次第ナリ

第二節　北樺太石油會社、北樺太鑛業會社、共通問題

第一款　事業計畫ノ不認可

石油會社ニ於テハ毎年營業年度開始ノ二ケ月前ニ當該年度ノ事業計
畫ヲ提出スル義務ヲ有スル處「ソ」側ハ右計畫ハ「ソ」側ノ認可ヲ
要スルモノナリト一方的ニ主張シ而モ最近滿足ニ會社ノ事業計畫ヲ
認可セル事例ナク又石炭會社ニ於テハ事業計畫ハ五年毎ニ作成シ「
ソ」側ノ同意ヲ取付クル規定ナルカ昭和十四年以來年々事業計畫ヲ
提出セシメ置キ乍ラ曾テ認可ヲ與ヘタルコトナキ實狀ニテ適時提出
セル南利運會社ノ昭和十六年度事業計畫モ遂ニ「ソ」側ノ認可スル
所トナラス右ハ勞働者傭入ニ對スル制限ト相俟テ依然トシテ南利運
ノ正常ナル發行ヲ不可能ナラシメ之カ爲石油會社ハ「オハ」鑛場ノ

E-1704
0058
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

現状経済ニ必要ナル程度ノ作業ヲ辛シテ行ヒ得タルニ過キヌ又石炭會社ニ在リテハ僅カニ土蔵炭積ノ保存行為ヲ為スニ止マレリ

第二款　日「ソ」人勞務者傭入問題

利權契約ニ依レハ會社ハ一定比率ニ從ヒ日「ソ」人ヲ雇傭スル權利ヲ有スルト共ニ若シ「ソ」側ニ於テ會社ノ必要トスル數ノ「ソ」聯人ヲ提供スルコト能ハサル場合ハ不足數丈ノ邦人ヲ雇傭スル權利ヲ附與セラレ居レリ然ルニ「ソ」側ハ之ヲ無視シ昭和十二年以來毎年會社ノ必要トスル勞務者ノ傭入ヲ制限シ且ツ百方其ノ遷延ヲ計リ諸作業ノ遂行ヲ困難ナラシメ居レリ而シテ昭和十六年ニ於テハ石油會社ハ利權契約所定ノ期日ヨリ早目ニ即チ三月初メ所要勞働力ノ申込（「ソ」聯人一四六九名ノ提供、邦人勞働者五四二名及交替職員七五名ノ人「ソ」）ヲ為シ在「ソ」帝國大使館ノ支援ヲ得テ交渉ニ努メタルモ實際提供セラレタル「ソ」聯人ハ僅カ一八七名（大部分ハ

E-1704

0059

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

職務能率低キ婦人ナリ）又六月末及七月中旬ノ二回ニ亘リ入「ソ」ヲ許可セラレタル邦人ハ勞働者三五〇名職員六〇名計四一〇名ニシテ殘リ二〇七名ノ入「ソ」ハ遂ニ許可セラレス一方石炭會社ニ在リテハ「ソ」聯人九〇〇名ノ提供、邦人四〇〇名ノ入「ソ」申込ハ不問ニ附セラレ只邦人交替者トシテ勞働者二八名職員一二名ノ入「ソ」許可セラレタニ過キサル實情ナリ尤モ右邦人送込ノ許可ハ前年ニ比レハ相當早目ニ發セラレタル次第ナリ

第三款　配給品價格不當引下問題

石油、石炭會社ハ別樣契約ニ基キ從業員及其ノ家族ニ配給スル物資ノ配給價格ニ付現地鑛山署長ノ確認ヲ受クル要アル處鑛山署長ハ右權限ヲ惡用シ正規ノ手續ニ依リ輸入セラレタル物資ニ對シ最近故意ニ品質ノ不良、形式ノ不適等ヲ口實トシ之カ價格引下ヲ强要スル傾向甚シク例ヘハ石炭會社ニ對シ昭和十四年度ハ認可價格ハ平均買入價格ノ五七％、昭和十五年度ニ同シク二五％ト云フ買入原價ノ甚シキ値下ヲ査定シ石油會社ニ對シテモ同樣法外ナル値下（衣服類ハ五乃至五〇％）ヲ强要シ甚シキニ至リテハ日本政府專賣局カ一ケ九錢ニテ賣出シ居ル煙草「バット」ヲ土産ニ於テハ僅カ一哥ニテ賣ラシメタル理ナルカ昭和十六年ニ於テハ「ソ」側ハ斯ル態度ヲ稍改メ大

E-1704
0060
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

部分ノ品ニ付テハ前年同樣ノ賣價ニ据置カシメタルモ衣料品ノ或物ニ對シテハ平均一八%ノ値下ヲ認メ又石炭會社ニ對シテハ坐炭値下ノ餘リ酷カリシ煙草及醬詰ノ一部（何レモ日本人用品）ニ付多少値上ヲ許シタリ

第四款　物資不配給裁判事件

昭和十三年末勞働組合ハ石炭會社カ團体契約ニ違反シ食料品ヲ組織的ニ配給セサリシ結果「ソ」聯人勞働者ハ社外ニテ會社配給値段ヨリ高價ニテ之等食料品ヲ購入スルノ餘儀ナキニ至リ四萬四千八百三十六留ノ損害ヲ蒙レリトノ口實ヲ以テ右金額賠償方ニ關ル訴訟ヲ提起シタルヲ以テ石炭會社ハ右ハ「ソ」側冒瀆カ會社ノ輸入セル物資ヲ品質不良ヲ理由ニ逆送又ハ廢棄方命シタル爲起リタル所以ヲ極力主張セルモ全然顧ラレス結局組合要求通リノ判決アリ控訴ニモ敗レ會社ハ右金額輸入ノ已ムナキニ至レリ。組合ハ之ニ味ヲ占メ更ニ日本人勞働者モ損害ヲ蒙レリト同樣裁判ヲ提起セルモ日本人勞働者カ社外ニテ食料品ヲ購入セルコトナキ旨申出テタル爲結局沙汰止ミト

E-1704
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

急レリ越エテ昭和十四年組合ハ石炭會社ニ對シ會社ハ計書的ニ日用品ノ團體契約規定迄ノ配給ヲ怠リ「ソ」勞働者カ三十七萬四千九百二十八圓ノ損害ヲ蒙レリト爲シ石油利權ニ對シテハ同シク食料品、日用品不配給ノ爲日「ソ」「ソ」人勞働者ノ損害ハ二十六萬四千三百三十九圓ニ達セリト稱シ夫々該當金額賠償方ニ關スル訴訟ヲ提起シタリ右金額ハ勞働者カ全部社外ニ於テ高價ニテ購入セリトノ假定ノ下ニ配給ナカリシ期間、勞働者數、其他ヲ基礎トシテ算出セル數字ニシテ石炭會社ノ分ニハ明白ナル計算上ノ誤謬サヘ存セリ、ニモ不拘「ソ」側裁判所ニ曾社側ノ主張ニハ全ク耳ヲ傾サス原告組合側ヲ支持シ暗黙要求ノ意思ナキ日本人ノ分ヲモ組合要求通リ賠償方判決セリ期ル裁判振リニテハ到底公正ナル結果ヲ期シ難キコト明カナル

次第ニモアリ我方ハ之ヲ外交交渉ニ移スコトトシ極力「ソ」側ノ反省ヲ求メタル結果石油會社ノ分ハ第一審ヲ終リ控訴セル處、石炭會社ノ分ハ第二審ヲ終リ極審ニ上告セル處一時有耶無耶ノ形ニ立至レリ。然ルニ昭和十五年ニ入ルヤ「ソ」側ハ再ヒ本件ヲ持出シ石油ノ分ニ付テハ長ラク沙汰止トナリ居リシ控訴審ヲ七月八日突如薩哈連州裁判所ニ開廷第一審判決ヲ有效トスルノ判定ヲ言渡シ會社ヲシテ最高裁判所ニ上告スルノ途餘ナキニ至ラシメタルカ其ノ結果又モヤ會社ノ敗訴トナリ前判決ヲ有效ト認ムル旨ノ決定下サレタリ斯クテ昭和十六年一月二十日「オハ」執達吏ヨリ訴訟金貳十六萬四千三百九十九圓二十八錢訴訟費用一萬八千五百八圓計三十八萬二千九百七圓二十八錢ヲ三日間内ニ支拂方ヲ命シ來レリ仍テ本官ノ訓令ニ基キ

E-1704

0062

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

「オハ」領事ヨリ外交代表ニ對シ本件ハ外交交渉繼續中ナルヲ以テ其ノ妥結ヲ見ル迄强制執行見合方交渉スル所アリ又在「ソ」帝國大使館ヨリモ「ソ」側ニ對シ利權財産、銀行預金等ノ差押ヲ爲ササル樣現地官憲ニ指令方申入ルル所アリタル結果一月二十七日ニ至リ在「オハ」外交代表ヨリ同地領事館ニ對シ本件執行ヲ當分延期スルコトニ決定セル旨通報越セリ

他方石炭會社ノ分ニ付テモ昭和十五年五月二十五日薩哈嗹裁判所ハ裁判ヲ再開シ又モヤ原告側ノ言分ヲ鵜呑ミトシ二十二萬四千四十五留四哥ヲ賠償スヘキ旨判決セリ右ハ昨年ノ要求額ニ比シ多少減額ヲ見タリト雖モ不當裁判タル事實ニ變リナキヲ以テ會社ハ最高裁判所ニ控訴シタル處九月十八日附會社宛薩哈嗹州裁判所ノ通告ニ依リ八

月二十日原審確認ノ判決アリタルコト判明セリ斯クスル中九月二十日執達吏ヨリ會社ニ對シ右賠償金支拂方ヲ要求シ來レルニ依リ會社ハ之ヲ不服トシ早速露西亞共和國檢事局ニ訴願シタルカ十月七日在莫科新會社代表ニ對シ右訴願ヲ却下セル旨通知越シ之ニ先チ會社ノ執行預金ヨリ訴訟費ニ大体相當スル一萬五千留ヲ密ニ控除セリ然ルニ其後賠償金强制徵收ノ擧ニ出ツル模樣ナカリシ處昭和十六年二月六日在亞港人民裁判所ヨリ露西亞共和國檢事宛會社ノ訴願ハ却下セラレタル旨ノ一月十六日最高裁判所ノ決定書ト共ニ本件損害ハ賠償關係者中「ソ」聯人ニ對スル分十二萬六千餘留ヲ三日以内ニ支拂ハサルトキハ强制執行スヘシトノ執達吏ノ告知書ヲ送付越セリ

仍テ右ニ付二月八日在「ソ」大使館宮川參事官ヨリ嚴重抗議シタル

E-1704
0063
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ニ基シ「ツアラブキシ」傾東部長ハ或判ニ以テ和壺者ノ言分ヲ考慮シ第一審ノ三十七萬四千九百余留ヲ昨年五月ノ再審ニ於テ二十二萬四千余留ニ減頒セルモノナレハ少ナクトモ「ソ」婦人關係ノミハ主意支拂ノ要アリ尤モ強制執行ハ差當リ見合スコトトナルヤモ知レストイヘタイ主後ニ社ヨリ執達更ニ照會セル所判決執行延期ノ申請受理セラレタルコト判明セリ

第五款　勞働國體契約期限延長問題

兩利權會社及勞働組合間ニ締結セラルル國体契約ハ效力一年限リナルヲ以テ毎年改訂又ハ更新セラルル規定ナル處「ソ」側ハ之カ交渉ノ都度不當ナル賃銀値上ヲ始メ多數困難ナル條件ヲ持掛ケ高壓的態度ヲ以テ要求貫徹ヲ計ルヲ常トス而シテ石油會社ノ國體契約ハ昭和十五年十二月ヲ以テ滿了シ猶豫期限ハ昭和十六年三月一日迄ニシテ爾後ハ無國契狀態ニ陷ルヘキヲ以テ會社ハ豫テ右有效期間ヲ其儘一ケ年延長スル樣組合ニ申入レ先方ノ出方ヲ靜觀シ居レル處同年三月十日組合ハ浴場、幼稚園ノ未完成、所定宿舍面積ノ不提供、昭和十四年度十五年度ニ於ケル酒保品供給ノ不足等ヲ指摘シ斯ノ如キハ會社ノ國契無視ノ態度ヲ證スルモノナレハ會社カ國契規定ノ義務ヲ

E-1704
0084
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

履行スル迄國契ノ改訂又ハ延長ニ應スルノ可能ナシト通知越セルニ對シ會社　ハ三月二十二日官憲ノ不法壓迫ノ下ニ生産作業ヲ犠牲ニ供シ制限セラレタル勞働力及資材ヲ以テ國契履行ニ專念シ來レル其ノ勢力ヲ顧ミスシテ組合カ單ニ二、三ノ例ヲ擧ケ之ヲ以テ會社ノ國契無視ト斷スルコトニ承服シ得ストノ趣旨ヲ以テ反駁スルト共ニ國契改訂ニ關シ兩當事者カ何等ノ申出ヲ爲シ居ラサル以上現在迄有效ナリシ國契カ引續キ有效ナルヘキハ當然ニシテ若シ組合側ニ國契改訂ノ希望アラハ交渉ニ應スル用意アル旨申入レタルカ之ニ對シ「ソ」側ヨリ未タ何等意思表示ヲ爲シ來ラサル趣ナリ

次ニ昭和十一年三月末ヲ以テ有效期限滿了トナレル石炭會社ノ國營契約ニ對シテハ同年六月改訂交渉ニ入ルモ組合側ノ要求過大ニシテ

妥結ニ至ラス翌十二年再開セル交渉モ又不調ニ終リタルノミナラス更ニ十三年ニ於テハ會社側數次ノ交渉再開ノ提議ニモ應セサリシ有樣ナルカ爾來實際上會社ハ從來ノ國營契約ヲ踏襲シ居ル次第ナリ

E-1704

0065

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六款　「ソ」側邦人露貨資金送付問題

米國ノ對日資金凍結實施ノ結果從來紐育經由米貨ヲ以テセル在「ソ」我當業者（北樺太石油、石炭會社及日魯漁業會社）ノ現地所要留資金ノ送付方法ハ不可能トナリタルヲ以テ至急實行可能ナル送金方法ヲ「ソ」側ト協定スル必要生シタルニ依リ大藏省トモ協議ノ上左記一ノ話合ヲ試ミ若シ右望ミ薄ナルニ於テハ暫定的方法トシテ二ノ方法ヲ承認セシムル樣「ソ」側ト交渉方在「ソ」大使館ニ訓令相成リタリ

一、若シ「ソ」側カ東京及紐育ニ於ケル日本側銀行間ノ「ソ」側資金送付ニハ凍結令ヲ適用セサルコトニ話合ヲ付ケ得ルニ於テハ問題ナキモ右不可能ノ場合ニハ

二、便宜朝鮮銀行東京支店所在ノ「ゴスバンク」本店口座ヘ留送金額ニ相當スル圓貨ヲ拂込ミ同本店ニ對シ之ヲ其ノ公定留對圓貨相場ニ依リ留貨ニ換算ノ上現地ニ送金スル樣鮮銀ヨリ指圖セシメ一方鮮銀口座ニ拂込マレタル圓貨資金ハ「ソ」側ノ日本ニ於ケル各種支途ニ當テ得ルト共ニ其ノ「バランス」ニ付「ソ」側ノ要求アルトキハ適時適當外貨（外國ノ資金凍結令ノ適用ヲ受ケサルモノ）ヘノ轉換又ハ已ムヲ得サル場合ハ金ヲ以テ決濟シ得ル所謂自由圓勘定ヲ開設シ以テ爲替上ノ危險ヲ免レ得ル樣取計フコト

仍テ昭和十六年八月九日在「ソ」帝國大使館齋藤書記官ヨリ右訓令ノ趣旨ヲ「バヴエルイチエフ」極東部長代理ニ申入レタル處「バ」ハ第一案ニ付資金凍結ハ日米間ノ問題ナリトテ之ニ「ソ」側カ干渉

E-1704
0066
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

スルヲ好マサルカ如キ口吻ヲ漏ラシタルニ付第二案ヲ提議セルニ對シ「パ」ハ容譲ノ上回答方約セリ然ルニ其後「ソ」側ハ研究中ナリトノ口實ヲ以テ荏苒回答ヲ遷延シ居リシ處石油會社ノ見地鎮撫所ニ在リテハ九月分勞銀支拂ヲ目前ニ控ヘ途方ニ暮ルルニ至リタルヲ以テ同大使館ヲシテ右實情ヲ「ソ」側ニ充明ノ上孰拠ナル交渉ヲ繼續セシメタル結果漸ク九月九日ニ至リ外務人民委員部ヨリ左ノ趣旨ヲ回答越シタリ

日本營業者ハ其ノ在「ソ」當邦代表者ニ當面ノ所要金ヲ送金スル爲在京露銀内「ゴスバンク」勘定ニ同額ヲ納入シ「ゴスバンク」ハ露銀ヲリ右納入額知ヲ受クルト共ニ「ゴスバンク」ノ公定相場ニ依リ相當額ノ邦貨ヲ受領者ニ支拂フヘシ

右納入ノ圓貨ハ日本内各種ノ支拂亞ニ任意ノ第三國宛送金ノ爲「ゴスバンク」ニ於テ自由ニ處分シ得ヘク尾鉄ハ「ゴスバンク」ノ請求ニ基キ納入額ノ範圍ニ於テ金塊ニ代ユヘキモノトス「ゴスバンク」ノ依頼ニ依リ各種支拂及第三國宛送金ハ一々日本政府ノ外國爲替機關ノ許可ヲ取リ付クル事ナク支障ナク行ハルヘキモノトス

前記送金ノ決算手續ハ在「ソ」聯日本商社出張所ノ當面ノ支出ニ當テラルル送金ノミニ適用セラレ政府間協定ヨリ生スル支拂金就央漁業者及利權者ノ借料及其ノ他ノ支拂金ノ決算ニハ關係ナキモノトス

右ハ大體我方要望ヲ容レタルモノナルカ大藏省ニ於テハ更ニ送金手

E-1704

0067

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

續ノ細目ニ付鮮銀ト「ゴスバンク」トノ間ニ取極ヲ爲サシメ度意向ナリシモ前記「ソ」側回答ハ夫レ自體既ニ實施取極ト看做サレ旁々是レ以上ノ取極ヲ「ソ」側ニ提議スルハ却テ不必要ナル意測ヲ爲サシメ且ツ交渉ニ多大ノ日子ヲ要スルコトトナル惧アリタルニ依リ送金上ノ細目ハ其ノ都度了解ヲ遂クルコトトシ右ニ關スル交渉ハ見合セタリ爾來本取極ニ基キ鮮銀内ニ開設スル「ゴスバンク」ノ別口圓勘定ヲ介シ石油石炭利權會社現地所要留資金ノ送付ハ支障ナク行ハレ居レリ

尚米貨送金ヲ要スル石油利權料及一留ニ付三十二錢五厘替ノ支拂ニ要スル漁業關係資金ノ送付方法ニ付テハ研究ノ上別途交渉スルコトトセリ

第三節　北樺太石油會社關係問題

第一款　原油積取特務艦ノ「オハ」入港問題

海軍省ニ於テハ例年通リ北樺太原油積取ノ爲特務艦早鞆ヲ北樺太「オハ」ヘ派遣スルコトトナリタルニ依リ六月十六日在「ソ」帝國大使館ヲシテ右特務艦ノ「オハ」入港竝ニ乘組員ノ上陸ニ付「ソ」側ノ同意取付方申入レシメタル處同月二十二日外務人民委員部ヨリ同艦ノ入港ヲ許可スル旨竝ニ乘組員ノ上陸ハ上陸ノ時間、地區及人員ニ關シ所定ノ規則厳守ノ上行ヒ得ル旨回答越セリ而シテ早鞆ハ八月六日及同月二十九日「オハ」ニ入港セル處其ノ入港手續、原油積取將校（數名）ノ利權油出見学及兵員ノ「オハ」海岸上陸（一回三十名以内）ハ支障ナク行ハレタル通ナリ

E-1704
0058
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二款　信山丸救助問題

「オハ」海岸附近ニ遭難座礁シタル神戸市興國汽船會社所有汽船信山丸（總噸數五、四七五噸）ノ救助問題ニ關シテハ「ソ」側ハ昭和十五年八月三十日調印ノ救助契約ニ於テ可及的短期間ニ該作業ニ着手スベキ旨約シ居ルニ不拘其ノ遷延的態度ニ依リ昨年中遂ニ右實施ヲ見ルニ至ラサリシ處昭和十六年四月十一日「エブロン」代表及石油會社港務課長カ同船ノ狀態ヲ視察シタル所ニ依レハ同船ノ外部狀態及傾斜ハ前年以來變化ナク救助作業ハ八月中旬迄ニ之ヲ完了シ得ル見込ナリシヲ以テ同汽船會社ヨリ在莫斯科石油會社代表ヲ通シ此旨「エブロン」本部ニ通報シ至急作業開始方申入レタルニ「ソ」側ハ回答ヲ遂ヒ容易ニ埒明カサリシニ依リ在「ソ」大使館ヨリ督促セシ

メタル處七月十四日所要ノ勞働者ハ既ニ現地ニアリ近日中ニ作業ニ着手スル筈ナリト回答越セリ

期クテ八月十二日現地鉱山署長ヨリ在「オハ」領事館ニ對シ「エブロン」作業班ハ作業ニ着手セル旨並ニ翌十三日ヨリ船内貨物ノ引卸シヲ開始スルコトナレル旨通知越シタルカ其後作業進歩ノ模様ナク我方關係者ヲ頻ク焦慮セシムルニ至リタルニ依リ在「ソ」大使館ヲシテ右ニ付「ソ」側ノ注意ヲ喚起シ冬期到來前ニ完了スル樣作業促進方ヲ要求セシメタルニ九月十九日「ツアラブキン」極東部長ハ官川參事官ニ對シ取調ノ上對策ヲ講スベキ旨約スル所アリ次イテ十月三日同月十五日迄ニ信山丸ノ積荷ノ陸揚終了スヘク其ノ上潛水作業ニ移リ船体ノ引卸ニ着手スル筈ナル旨及作業ノ迅速完了方ニ付テハ

E-1704
0069
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

現地當局ニ對シ訓令濟ナル旨言明スル所アリタリ

他方在「オハ」帝國領事ヨリモ本省ノ訓令ニ基キ外交代表ニ對シ同船救助契約第十五條ヲ指摘シ作業進捗狀況ノ逐次報告方再三要求シタル處十月十四日附ヲ以テ左ノ通リ回答越ス所アリタリ

一、汽罐一基ヲ修理セリ

二、「スチームウインチ」七基ヲ修理シ作業可能狀態トナレリ

三、貨物約五百屯ノ手入（選別及乾燥）ヲ爲セリ

四、貨物四百屯ヲ海岸ニ荷揚セリ

其ノ他目下肋骨鍛接ヲ開始シ且ツ貨物ノ手入及陸揚續行中

其後モ我方トシテハ本件作業促進方ニ付「ソ」側ノ注意喚起ヲ怠ラサリシ處在「オハ」領事ノ照會ニ對シ十二月十一日外交代表カ浦潮

ニ引揚ケタル「エプロン」代表ノ言ナリトテ答ヘタル所ニ依レハ前回通告以後ノ作業トシテハ船内貨物全部ヲ荷分陸揚シ完全ナル狀態ニ於テ之ヲ陸上ニ保管中ナルカ悪氣候來ノ爲他ノ作業ハ中止ノ余儀ナキニ至リタリトノコトニテ本件救助作業ノ遂行本年モ復々不可能トナリタリ

E-1704

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三款　船舶ノ支所寄航問題

本問題ハ昭和十二年以來毎年紛糾ヲ重ネ勞働力及輸入物資ニ對スル不當制限ト共ニ「オハ」ニ次ク發展ヲ見ントシツツアリシ「カタングリ」鑛場ノ閉鎖ヲ餘儀ナクセシメタル主要原因ヲ爲スニ至レリ昭和十六年モ前年同樣會社ハ同支所勤務ノ日「ソ」人番人ニ適時食料品其ノ他ノ物資ヲ供給スル必要アリ四月下旬配船表ヲ「ソ」側ニ提出シおは丸ノ「カタングリ」入港許可方再三交渉セルモ埒明カサリシ處其後漸「ソ」開戦ノ爲在京所科會社代表引揚ケタルニ依リ帝國大使館ヨリ引續キ交渉セル結果漸ク七月下旬ニ至リ右許可シ來レリ

第四款　採油禁壓ヲ目的トスル各種不當命令及要求濫發問題

「ソ」側現地各官憲ハ相互ニ相提携シ法規適用ノ名ノ下ニ現地事情ヲ考慮スルコトナク或ハ不必要或ハ不可能ナル各種命令ヲ而モ期限附ニテ濫發シ之カ實施ヲ會社ニ強要シ居ル處右ハ要スルニ企業能力ヲ此ノ方面ニ消耗セシムルコトヨリ生産作業ヲ妨害シ以テ會社ヲ窮地ニ陷レントスル計畫的壓迫行爲ニ外ナラス

斯ル「ソ」側態度ハ昭和十六年ニ入ルヤ一層惡質トナリ利權監督官廳タル鑛山署ハ技術監督官、火防監督官等關係官ヲ總動員シテ會社ノ企業殊ニ採油禁壓ニ手ヲ盡シ始メタル觀アリ此ノ爲多數ノ採油井ハ停止セラレタルニ止マラス進ンテ企業ノ生産機構自體ノ運轉禁止

E-1704
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

スラ行ハルルニ至レルコト左記ノ通リナリ

一、不當命令續發ニ依リ會社ノ多數採油機構ノ運轉禁止セラレタル爲從來二百瓲以上ナリシ採油日産ハ僅カ五十瓲ニ低下シ最少限鎭場所要燃料供給スラ不可能トナレリ

二、鎭場「タンク」使用許可ノ不當遷延ニ依リ海岸「タンク」ヨリノ送油管凍結シ鎭場燃料ノ補給困難トナレリ

三、嚴寒時ニ於テ官憲ハ不當命令ヲ發シ汽罐ノ運轉禁止ヲ敢行セル處右ハ給水管、送油管ヲ凍結セシメ住宅其ノ他ヘノ「スチーム」供給ニ支障ヲ來サシメ始メタリ

抑々監督官カ此ノ如キ强行手段ヲ採リ得ルハ直接勞働者及從業員ノ生命ニ對スル危險防止ト云フカ如キ極メテ特殊ノ場合ニ限定セラレ

居ルニ拘ラス現地官憲ノ採レル措置ハ何等之等ノ危險ナキ諸施設ニ對シテ過酷ナル命令履行ヲ强要シ企業組織ヲ破壞シ全從業員及家族ノ生活ヲサヘ脅威セントスルモノニシテ全ク不法且越權行爲ナルノミナラス企業ニ對シ一切ノ適切ナル保護及便宜ヲ供スヘキコトヲ規定セル條約ニ背反シ利權契約ヲ蹂躙セルモノト云ハサルヘカラス一方右炭利權企業ニ對シテモ依然トシテ不當ナル壓迫ガ加ヘラレ居ル實情ナリキ

仍テ二月二十日大橋次官ヨリ在京「スメタニン」「ソ」聯邦大使ニ對シ右實情ヲ指摘シ「ソ」側ノ不法措置卽時撤回方要求スル所アリタルカ之ヨリ先在「ソ」建川大使ニ於テモ本省訓令ニ基キ二月十八日自ラ「モロトフ」外務人民委員ニ會見シ本件舊臘既ニ東京ニ於テ

E-1704
0072
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

「スメタニン」大使宛為ト申入レ濟ノ次第アルニモ不拘「ソ」聯現地官憲ノ態度ニハ其後何等改善ノ跡ナキノミカ却テ悪化シツツアルハ心外ニシテ右ハ恐ラク日「ソ」國交ニハ頓着ナキ現地官憲ノ擅斷ニ出ツルモノト推斷スル外無キ次第ナルカ本件ハ何レ根本的解決ノ決心ヲ以テ目下研究中ナル際ニモアリ我方ハ斷シテ斯ル非違ニ屈スルモノニ非サル所以ヲ説示シ強硬抗議スルト共ニ前記不當措置即時撤回方嚴重申入レタルニ對シ「モロトフ」ハ誤解ヲ除キ兩國國交調整ノ根本問題ヲ解決スルハ「ソ」政府ノ方針ナレハ利權者モ其ノ負擔セル義務ヲ正確ニ履行スルコト肝要ナリ利權ノ根本的解決ハ今後日「ソ」國交改善ノ爲望マシク右ハ兩國ノ關心ヲ有スル根本問題ノ調整ニモ資スル所アルヘシト述ヘ利權者ニ困難ヲ來ササル樣現地ヘ

指令方約セリ

然ルニ右「ソ」側ノ言明ニ拘ラス其後現地ニ於テハ「ポンピングバワー」ノ運轉ヲ連續的ニ禁止スルカ如キ採油禁壓手段強行セラレ我方トシテ此上隱忍ヲ許ササル事態トナリタル爲六月初メ左近司石油會社々長ヨリ在京「ソ」大使及在莫斯科石油人民委員ニ對シ右不法態度是正方嚴重申入レサルヲ得サリシ事實アリタルカ敍上ノ如キ態度ハ獨「ソ」開戰後漸ク改善ヲ示スニ至リ其後「ソ」側ハ此種不當命令乃至要求ノ新規濫發ヲ慎ムト共ニ從來發セラレタルモノニ付テモ之カ實施追求ヲ見合シ居ル模樣ナリ

E-1704

0073

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五款　片山量役ノ「オハ」滯在問題

北海太石油會社新任片山常務取締役ハ利權事業視察ノ爲昭和十六年七月初メ在京「ソ」聯大使館ニ對シ入「ソ」査證方ヲ申入レタルカ容易ニ埒明カサリシニ依リ本省及在「ソ」帝國大使館ヨリ右交渉ヲ支持斡旋ニ努メタル結果同人ハ十月四日漸ク一ヶ月滯在期限附ノ査證ヲ受ケ辛シテ終航船ニ間ニ合ヒ同月十三日「オハ」ニ到着セリ然ルニ同人ハ終航船ノ「オハ」出帆迄餘日少ナク視察其ノ他ノ用務ヲ果スコト不可能ナリシニ依リ現地ニ越年スルコトニ決シ在「オハ」村領領事ヲ通シ現地當局ニ對シ滯在期間ノ延長方ヲ申請セル處中央ニ請訓スヘシトノコトナリシカ其後小川所長ハ持病ノ脚氣ニテ無遠歸國セサルヲ得サルコトナリ其ノ不在中片山カ鑛業所所長トシテ

「オハ」ニ滯在スルコトトナリタルヲ以テ村領領事ハ改メテ其ノ旨ヲ外交代表ニ通知シ本件斡旋方ヲ依頼シ連日督促シ居リシ處終航船出帆前日タル十月三十一日ニ至リ外交代表ヨリ本件ハ庭日「ソ」聯大使館ノ所管事項ニシテ外務部ノ關與シ得サル所ナリトテ右申請ヲ拒否スルト共ニ終航船ニテ歸國方ヲ要求シ來リ小川所長ノ乘船セル最終船豫定通リ十一月一日ニ出帆シ日本向便船絶エタル後ニ於テモ尚モ「ソ」側ハ執拗ニ片山所長ノ出國ヲ迫リ其ノ職務執行ヲ不安ナラシメントシタルニ依リ外務省ニ於テハ在京「ソ」大使ヲ通シ「ソ」側中央當局ニ事情ヲ説明シ明年初航船迄ナリトモ引續キ現地滯在許可方强力交渉ニ努メタル結果十一月二十四日ニ至リ昭和十七年五月十五日迄ノ滯在許可セラルルコトトナリ漸ク本問題ノ解決ヲ見タル次第ナリ

E-1704

0074

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六款　石油試掘權期限延長問題

北樺太石油會社ハ日「ソ」基本條約附屬議定書(乙)ニ基ク利權契約ニ依リ「オハ」以下八ケ所ノ油田ニ於ケル西十五ケ年ノ採油權ト共ニ一千平方露里ノ地積ニ亘ル十一ケ年(昭和十一年十二月十四日迄)ノ石油試掘權ヲ獲得シ其ノ地域ニ付テハ昭和二年二月二十一日ノ追加協定ヲ以テ北「オハ」以下十一ケ所ニ決定ヲ見タル次第ナリ

然ルニ其ノ後試掘作業ハ地理的、氣候的關係ニ伴フ作業難ハ別トスルモ出先「ソ」側官憲ノ非協力的態度ノ爲著シク阻害セラレ所定ノ期限迄ニ豫定ノ作業ヲ遂行スルコト不可能トナレルニ依リ我方ハ試掘期限ヲ五ケ年即チ昭和十六年十二月十四日迄延長スルノ必要ヲ痛感シ「ソ」政府トノ間ニ種々折衝ヲ重ネタル結果右容認ノ條件トシテ「ソ」政府ノ提出セル要求事項ヲ容認スルコトニ依リ昭和十一年十月十日追加協定ノ形式ヲ以テ試掘期限延長ニ關スル協定ノ成立ヲ見タリ

斯ノ如ク本協定ヲ成立セシムルニ付テハ我方トシテ之カ代償ノ意味ニテ「ソ」側ノ要求ヲ相當承認シタル次第ナルカ爾來右「ソ」側要求事項ノミハ完全ニ實行セラレ居ルニ反シ試掘作業其ノ物ハ「ソ」側ノ意識的妨害行爲(事業計畫ノ不認可、所要勞働者ノ彈入及入國制限等)即チ當業者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ此ノ五ケ年間殆ント着手スルコトスラ出來サリシ實狀ニテ右協定ハ全ク片務的ノモノトナリタル儘昭和十六年十二月十四日ヲ以テ期限經過セル次第ナリ

E-1704
0075
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

仍テ外務省トシテハ右期限滿了ニ先チ在京「ソ」大使ヲ通シ「ソ」政府ニ對シ敍上「ソ」側ノ責任ヲ指摘シ試掘期限ヲ更ニ五ケ年間延長スルコトニ同意セシムヘク交渉ヲ開始シタルカ「ソ」側ハ前記昭和十一年十月十日ノ協定調印ニ當リ我方代表ヨリ「ソ」側ニ對シ差出シタル書翰中ニ右延長カ最終的性質ヲ有スルモノナルコト了承セル旨ノ言質ヲ與ヘ居レリトナシ拒否的態度ニ出テ居ルニ付我方ハ條理ヲ盡シテ「ソ」側ノ再考ヲ求メ本問題ノ圓滿解決ヲ期シツツアル次第ナリ

第四節　北樺太鑛業會社關係問題

第一款　木材沒收問題

昭和十六年四月及六月「サハリン」森林部ハ鑛業會社カ昭和十二年「マーチ」利權地域内ニテ伐採シ「マーチ」川岸迄搬出シタル木材約二萬本（檢印濟ノモノ約二千本、未檢印ノモノ約一萬八千本、何レモ拂下料納付濟）並ニ「ウフヂミロフスキー」鑛區ニ殘置ノ木材約四千本（未檢印ナルモ拂下料納付濟）ヲ規定ノ期限内ニ林區ヨリ搬出セサリシ事實ヲ從ヘ木材拂下規定第六條及第三十八條ニ據リ之ヲ沒收スヘキ旨通告越セルニ依リ在「ソ」帝國大使館ヨリ外務部ニ對シ會社側交渉ヲ支援シ右沒收通告取消方嚴重抗議セル結果同森林部ハ七月下旬會社代表者立會ノ下ニ前記未檢印木材約一萬八千本ニ

E-1704
0076
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

對シ倣印ヲ付ヒタリ則來本日沒收取消ニ付「ソ」側ヨリ正式通告ナキモ石檢印貢瓦ハ沒收通告ヲ有耶無耶ノ内ニ取消シタルニ非スヤト見ラレ居レリ

尙石沒收通告ニ關係ナキ「マーチ」川床流送途中ノ不材約四千三百本分（倣印ヲ了シ拂下料納付濟ノモノ）ノ同川口迄ノ流送方ニ付テハ同社代表者ハ八月十六日附ヲ以テ曾社ノ顧問ヲ谷レ十月一日迄ノ期限附ニテ之ヲ許可シ來レリ

第二款　關税不當賦課問題

(一)社外分讓物資ニ對スル關税賦課

昭和十四年三月亞港税關ハ當社カ一九三一年ヨリ一九三七年ノ間ニ土威利潅地域所在ノ「ソ」側諸機關ニ其ノ慰請ニ依リ物資ヲ分讓シタルヲ非常識ニモ密貿ナリトシテ罰金及追徵金合計八四、四〇〇留ヲ課スル旨通告シ來レルカ右ハ在莫斯科曾社代表ヨリ交渉シタル結果當時ノ亞港税關長ヨリ本件ハ打切リトスルニ付今後社外分讓ハ税關ノ許可無キ限リ禁スル旨言明ノ次第アリタリ

然ルニ昭和十五年四月五日同税關ヨリ税關本部ノ指令ナリトテ當時課シタル罰金及追徵金ヲ取消スト共ニ改メテ曾社ハ利契第十八條ニ違反シテ國内市場ニ販賣シ「ソ」側ニ損害ヲ及ホシタルモノ

ナルヲ以テ二週間以内ニ關税二八、三四〇留ヲ納入スヘキ旨要求越セリ

本件ハ前述ノ如ク二年前ニ解決濟ノ問題ナルニ加ヘ税關法第百六條ノ解釋ヨリスルモ當然時効ニカカリタルモノト思ハルルニ又復之ヲ蒸返シ不當ナル關税ヲ課スルハ全ク不可解ナルノミナラス税關ノ引用スル利契第十八條ノ違反ハ左ノ理由ニ依リ根據ナシ

(イ)分讓先ハ利權地域内ノ病院、小學校、「ルドコム」等ノ如ク會社ト密接ナル關係アル方面即チ會社勞務者附屬機關ト看做シ得ヘキモノ大部分ニシテ個人ハ全然含マレ居ラサルヲ以テ會社カ輸入品ヲ國内市場ニ販賣シタリトスルハ當ラス

(ロ)分讓品中ニハ輸入品ニ非ル北樺太産ノ木材、煉瓦等ヲモ含メリ

(ハ)分讓品ノ主ナルモノハ當時北樺太ニ缺乏シ居リタル建築材料、電燈材料、文房具等ニシテ分讓ニ依リ「ソ」側各機關ハ多大ノ便宜ヲ得コソシタレ「ソ」側ニ損害ヲ及ホシタリトナスハ全然實情ニ反ス

(二)超過配給物資ニ對スル關税賦課

一九二九及四〇年中ニ亞港税關ハ會社カ其ノ勞働者ニ對シ(イ)國禮契約ノ標準以上ニ配給セル物資(ロ)賃金額以上ニ配給セル物資(ハ)勞働者ノ扶養下ニ非サル家族員ニ配給セル物資(ニ)鑛山署ノ檢印ナキ手帳ニ依リ配給セル物資等ヲ密貿ナリトシ罰金及追徵金七口合計九〇、一八二留九〇哥ヲ課スル旨通告シ來レルニ對シ會社側ハ其ノ都度税關本部ニ抗議シ置キタルカ亞港税關ハ四月九日附ヲ以テ

E-1704

0078

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

稅關本部ノ指令ニ依ルトシテ密賣トシテノ罰金及追徵金ハ取消サレタルモ本件ハ利契第十八條違反ナルヲ以テ一二一、八三四留九五哥ノ關稅ヲ二週間以內ニ支拂フヘキ旨要求シ來レリ

然ルニ會社ハ輸入物資ヲ國契所定ノ値段及利契第十七條ニ基キ鎭山署長ノ認可セル値段ニテ夫々勞働者及其ノ家族ニ配給シ來レルモノニシテ超加配給セルコトヲ無許可ニテ「ソ」聯內地市場ニ販賣シタルモノト看做スハ全ク謂レナシ稅關ハ國契、利契トハ別ニ昭和十四年十月頃ヨリ被扶養者數以上、賃銀以上及「ノルマ」以上ノ配給ヲ禁止スル新配給制度ノ實施ヲ會社ニ强要シ會社ニ於テハ主義上異議アルモ已ムヲ得ス之ニ從フコトトセル處超加配給ノ中ニハ

(イ)露人勞働者ハ物資ヲ多ク取ラントシ被扶養者數異動ノ屆出ヲ爲サス會社ニ於テ「パスポート」檢査ニ依リ家族ヲ調査セントスルヤ組合ハ之ヲ阻止セル爲生セルモノ

(ロ)賃銀以上配給禁止ハ實行上ノ細目ニ付組合及鎭山署ト協定スル必要アリ依テ此ノ分ニ付テハ昭和十四年十一月一日ヨリ實施方願出テタルニモ不拘十月分ノ配給ヲ終リタル十月二十八日ニ至リ稅關ヨリ延期願ヲ拒絕シ來リシモノニシテ事情已ムヲ得サルコト明白ナルモノ

(ハ)新配給制度實施ニ當リ鎭山署ハ「扶養家族員數ヲ檢印スルモノナルヲ以テ食堂ヲ利用スル獨身者カ食料品以外ノ個人用物資ヲ購入スル爲別ノ配給手帳ヲ受クル時ハ此ノ分ハ檢印ノ要ナシ」

E-1704
0079
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ト言明セルニ依リ右ニ該當スル數名ノ勞働者ニ對シ無檢印ノ手帳ニテ配給セルコトトナリタルニ過キサルモノ

等配給其ノセノハ實質的ニ何レモ合法的ニ行ハレタルモノナルカ又ハ新配給制度ニ移行ノ過渡期ニ際シ係員不慣ノ爲些細ナル技術上ノ間違ニ依リ生シタルモノニシテ之等ヲ利權第十八條ト結付ケントスルハ不當モ甚シト云ハサルヘカラス

仍テ以上(一)及(二)ノ件ニ付在莫科斯會社代表ハ早速在「ソ」帝國大使館ノ指示ヲ受ケ稅關本部ニ對シ前述ノ理由ヲ强調シテ課稅命令撤回方交渉セル處現地ニ照會ノ上審議スルコトトスヘキモ中央ニテ解決スル迄ハ關稅徵收ヲ行ハサル旨ノ回答アリ一方現地稅關ヨリモ四月十九日附ヲ以テ稅關本部ノ決定ハ最終的ノモ

ノニシテ會社ハ關稅ヲ支拂フヘキモノナルモ中央交渉妥協結ツ見ル迄之カ支拂ヲ見合スヘキ旨ノ鑛業所ノ申出ヲ了承スル旨ヲ通知越セリ其後「ソ」側ハ今日迄ノ所强制徵稅ノ擧ニハ出テ居ラス

E-1704

0080

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三款　利權地域無斷使用

「サフトルク」ハ薩哈嗹(供給部)ハ土威ノ石炭會社一號宿舍燒跡(昭和十年燒失)ニ昭和十六年六月五日ヨリ會社ニ無斷テ建築ヲ開始セルニ依リ會社ヨリ鍬山署ニ對シ該地區カ會社ノ宿舍建築豫定地ナルコト從ツテ無斷建築ハ利契第十九條ヲ無視スル行爲ナルコトヲ指摘シ建築中止方要求シタルニ先方ハ「サフトルク」ハ土威住民ニ對スル供給ヲ良好ナラシムル目的ヲ以テ土威村會ノ許可ニ依リ店舗ノ建築ヲ爲スモノナリ右燒跡ハ今日迄空地トナリ居リ之ニ建物建築ヲ豫定セル具體案ハ會社ヨリ提出サレ居ラス且又利權契約ニハ利權地域内ニ於ケル建築ニ付會社ノ許可ヲ要ストノ規定ナシ旁々右建築ニ依リ會社ノ權利及利益ハ何等侵害セラルル所ナシトテ建築中止ヲ

容易ニ肯スル模様ナカリシニ依リ其後本件ハ中央交渉ニ移ササルヲ得ス コトトナリ在「ソ」帝國大使館ヨリ「ソ」側ニ對シ抗議繼續中ナリ

E-1704

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四款　土威製材所復舊問題

昭和十六年二月五日土威鑛業所製材所ヨリ出火同建物殆ト全燒セル處宿舍修理用並事業用製材續行ノ爲同製作所ノ復舊ヲ必要トシタルニ依リ鑛業所ハ三月五日現地鑛山署ニ右復舊案ヲ提出シ爾來之カ認可方ヲ屢々督促セルモ埒明カサリシニ依リ在「ソ」帝國大使館ノ支援ヲ得テ更ニ交渉ヲ續行セル結果九月初メ漸ク復舊案認可ノ運トナリタリ

第五款　「ソ」側滯納電燈料支拂問題

土威鑛業所ハ村會事務所、病院、小學校其ノ他「ソ」側諸機關ニ對シ其ノ懇請ニ應シ電燈用電力ヲ供給シ居リシ處昭和十五年八月右電燈料其ノ他會社收入ニ對シ所得稅ヲ賦課スヘシトノ問題發生シタル際病院、小學校及內務部機關ヲ除キ其ノ他ノ「ソ」側機關ハ右電燈ノ利用ヲ中止スルニ至レリ而シテ當時ニ於テモ年餘ニ亘ル電燈料ノ滯納アリタル處昭和十六年七月一日土威村會カ支拂ヒタルヲ始メトシ九月十一日迄ニ此等滯納電燈料七、三〇〇餘留ハ數回ニ分チ鑛業所ニ支拂ハレタル趣ナリ（昭和十五年度執務報告第五章第六節第四款參照）

E-1704
0082
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五節　坂井組合關係問題

第一款　坂井組合利權取消問題

北樺太「アグネウォ」炭鑛ハ日「ソ」基本條約ニ基キ大正十五年莫斯科ニ於テ坂井組合ト「ソ」政府トノ間ニ租鑛契約ノ締結ヲ見タルモノニシテ期間四十五年、鑛區ハ北樺太西海岸、日「ソ」國境ヨリ北方十五里ノ地點ニアリ面積百四十萬坪、炭層數十二ヲ算シ埋藏量約五千萬瓲ト稱セラレ居レリ

坂井組合ハ利權獲得後三回ニ亘リ精細ナル炭層調査ヲ行ヒ再開發ノ計畫ヲナリシ處炭界不況ヨリ未タ着手ニ到ラサリシカ昨年十二月ニ至リ機熟シ而工業ノ認可ヲ受ケ資本金八百萬圓ノ北樺太炭鑛株式會社ヲ組織スルニ決シ折角準備中ナリシ處同年九月二

十八日附ヲ以テ矢如「ソ」駐在工業人民委員部ヨリ同組合ノ利權取消方通告越セリ通告ノ理由トセル點ハ大體(イ)組合ハ過去十二年間全ク試掘又ハ利權給付ニ着手セス契約ニ違反セリ(ロ)組合ハ「ソ」聯邦家ノ財產保護ニ付何等ノ指導ヲ請ハス鑛區ニ多大ノ損害ヲ與ヘタリトノ二點ニ在セリ

而シテ「ソ」側ハ不法ニモ右取消通告前ニ既ニ組合現地代表ヲ監禁シ又鑛區在住人及其ノ家族ノ「アグネウォ」ヨリノ退去方ヲ命シタリ

依テ此ノ事ニ關シテハ在「ソ」大使館ヲ通シ或ハ直接在京「ソ」大使ニ對シ右「ソ」側通告ノ手續內容ニ極メテ不當ニシテ所ル方法ニ依リ組合ニ與キ損害セル我權益ヲ否認セントスル如キハ絕對ニ認ヲ得サル旨嚴重抗議ヲ爲シタルモ斯明カサリキ

E-1704
0083
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其後「ソ」政府ハ昭和十三年四月在京「ソ」領大使ヲ通シテ日「ソ」間諸懸案一括解決交渉方提案シ來リタル内ニ「ソ」側ハ坂井組合ノ利権取消通告ヲ撤回スヘシトノ一項アリタルカ本交渉ハ種々難航アリテ容易ニ進捗セサル内、張鼓峰事件発生等ノ事情モアリテ自然立消エノ形トナレリ

斯クスル内昭和十三年十二月二十日發刊ノ亞港「ソ」側機関紙「ソヴイエトスキー、サハリン」紙上ニ加テ北樺太工業大臣語ノ左命ナリ見出ノ下ニ「ソ」領石炭企業ノ手ニ依ル「アグネウオ」炭坑ノ利用及色麻掘リ幸運アリタルニ付ザ在亞港總領事ヲシテ右實情ヲ調査セシメタル處同排外交代表ハ我總領事ニヨリノ問合セニ對シ坂井組利權ナルモノハ既ニ消滅シ居リ「ソ」側カ日露ノ鑛山ヲ島

セリトテ日本ニ何等諒解ナシト不遜ナル言明ヲ為シ右炭坑開發ノ事實ヲ言外ニ黙定セリ

依テ在「ソ」大使ヲシテ「ソ」側カ日「ソ」條約ニ基ク本利權ヲ而モ懸案中ニ對シ居ルニ拘ラス一方的意思ヲ以テ勝手ニ回收シ開發ニ着手スルカ如キハ甚シキ不法行為ニシテ絶對我方ノ容認シ得サル所ナルコトヲ主張セシメ右不法行為ノ即時中止方嚴重抗議ヲシメタルカ右ニ對シ「ソ」側ハ異議アラハ「ソ」縣最高裁判所ニ提訴スヘシトノ從來ノ主張ヲ繰返スノミニテ我方申入レニ應セサルニ依リ更ニ「ソ」側ニ對シ我方ノ主張ヲ強調セシムルト共ニ若シ「ソ」側カ飽ク迄反省セサル場合ハ右「ソ」側ノ不法措置ニ依リ生シタル損害ニ付賠償ヲ要求スル旨嚴重申入レシメタリ

E-1704
0084
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

然ルニ「ソ」側ハ其後モ依然トシテ仲等反者ノ移子ヲ以テ昭和十四年ニ入リヤ同年六月十日頃又書ヲ以テ若シ移轉ヲ消ニ不同意ナルニ於テハ告訴スヘキ旨從來ヨリ指流セルニ不拘移轉者カ右權利ヲ行使セサリシ本問題ハ交渉中ニ屬スルモノト思考スル能ハス從テ同炭坑ノ「ソ」側ニ依リ開發ハ合法的ナルカ日本大使館ヨリノ損害賠償ノ要求ハ拒絶ナシトテ之ヲ拒絶スルト共ニ「ソ」政府ハ坂井組合カ十二年間利益ヲ獲マサリシ結果蒙リタル損害賠償問題ヲ日本側ニ於起スル權利ヲ留保スル旨申越セリ

斯クノ如ク本問題ハ「ソ」側ノ横車的態度ニ在リ未タニ何等ノ解決ヲ見サル次第ナリ

第二款　眞島元坂井組合亞港出張員ノ財産不法處分ニ對スル損害賠償要求問題

坂井組合元亞港出張員眞島勝司昭和十二年七月「ソ」側官憲ノ爲所謂「スパイ」嫌疑ニテ拘禁セラルルヤ同人カ北樺太行政引渡前ヨリ所有居住シ居リシ亞港市「ノウオオクチヤブリスカヤ」街第二號所在ノ住宅二棟（外ニ物置一棟）ハ在亞港田中總領事及外交代表「カシリン」間ノ協議ニ基キ總領事館書記生立會ノ下ニ同年九月下旬同地民警署員ノ手ニヨリ閉鎖セラレ爾來該家屋ハ現地「ソ」側官憲ニ於テ之カ保全ニ當ルコトトナレリ然ルニ昭和十三年三月(一)該住宅ノ一室ニ「ソ」聯人居住シ居リ且ツ(二)物置取毀サレツツアルヲ目撃セルヲ以テ同總領事ヨリ外交代表ニ抗議セル處同年三月二十七日外交

E-1704
0085
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

代表ハ(一)物置取毀ハ亞港市公共經濟部員カ右建物ヲ同部所有物ト誤リテ爲セルモノナルコト(二)市「ソヴィエト」ハ取毀工事ヲ中止シ該物置ノ原狀恢復ヲ命セリ(三)今後該住宅及物置ニ亞港市機關ヨリ番人ヲ置クヘシトノ趣旨ヲ言明セリ

然ルニ「ソ」側ハ其後同總領事ノ督促ニ拘ラス何等原狀恢復ノ措置ヲ講セサルノミナラス昭和十五年眞島カ刑期ヲ終ヘテ歸國スルヤ我方乃至本人ニ無通告ニテ該住宅及物置ヲ取拂フノ暴擧ニ出テタリ

仍テ眞島ハ前記「ソ」側ノ不法措置ニ對シ損害賠償ヲ要求スルコトニ決シ昭和十六年五月外務省ニ之カ斡旋方ヲ願出タルニ依リ在亞港中田總領事代理ハ右願出ノ趣旨ニ基キ七月十二日外交代表ニ對シ本件家屋關係ノ書類（保險金納入證等）ヲ提示シ亞港「ソ」側未陳部

ノ査定ニ依ル家屋評價額ヲ損害賠償額トシテ金一萬七千留ノ支拂方ヲ要求セル處本件家屋ヲ適法ニ取得セル事實ヲ證セル公證書類ノ提示カキヲ理由ニ賠償不可能ヲ主張セルニ依リ同總領事代理ハ眞島カ

(四)三、右家屋ニ付「ソ」側ニ對スル一切ノ手續ヲ了シ所有權ノ確認ヲ待置キタル處維ヲ說明シ再考ヲ求メタリ次イテ十月三日同總領事代理ハ本省ノ訓令ニ基キ(一)眞島カ昭和八年當區面入建物登錄簿本ノ下付ヲ受ケタルコト(二)眞島同家我事ノ北樺太保障占領當時亞港ニ於テ家屋ヲ取得セル吉成春吉及馬場氣助カ公正証書ノ如キモノヲ提示セラルルコトナク家屋買受ヲ許可セラレタル實例アルコトヲモ指摘シ政治的考慮ニ依ル積極的解決ヲ要望セリ右交渉ハ其後モ繼續セラレ居リシ處十一月十三日外交代表ハ「ソ」側トシテハ本

E-1704

0086

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

件ニ關シ尚論爭スヘキ根據ヲ有スルモ此際論爭ヲ中止スルコトトシ左記計算ニ依リ一九四〇年現在ノ家屋評價額七千三百四十九留ヲ賠償金トシテ支拂フヘキ旨約セリ

記

眞島家屋原價償却計算表

建物ノ名稱	原價償却期間	建築價格	一九三五年四月現在償却率	一九三五年四月現在價格	一九三五年一九四〇年ノ六ヶ年間ノ償却率	同上償却價格
住宅	二〇年	七、一九二留	四〇%	四、三一五留	三〇%	二、一五七留
住宅	二〇年	一三、五四五	三三%	九、〇七五	三〇%	四、〇六二
附帶建物	二〇年	五九一	四〇%	三五五	三〇%	一七七
物置	二〇年	一、二四一	七〇%	三、三七二	三〇%	三、三七二
物置	二〇年	一、四〇一	八〇%	一七、三九七	二〇%	一〇〇四八
計		三三、九七〇				

一九四〇年現在ノ價格ハ一七、三九七留ヨリ一〇〇四八留ヲ控除ル額即チ七、三四九留トス

而シテ眞島ハ此上各方面ニ迷惑ヲ掛クルモ本意ニ非ストテ前記「ソ」側申出ノ金額ニ同意シタルカ右ハ圓貨ニテ東京ニテ受領シ度キ希望ナリシヲ以テ右趣旨ヲ「ソ」側ニ申入レタルモ容レラルル所トナラサリシニ依リ同總領事館ヲシテ受領セシメタル右露貨七千三百四十九留ハ北樺太鑛業會社ノ厚意的指圖ニ依リ土威鑛業所ニ於テ之ヲ一留ニ付六十錢替ノ相場ニテ引取リタルヲ以テ（十二月二十七日「ゴスポンク」亜港支店所在同鑛業所預金口座ヘ振込）之カ代リ金、四

E-1704
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

千四百九圓四拾錢也ハ東京ニ於テ眞島ニ交付スルコトヲ得タリ

外機密

電信寫

分類E4.2.2.2

纏番號	五五二
符號	暗
	昭和十八年一月十一日後七時分
受主	政三

在蘇 佐藤大使

石油會社鑛業所來電轉電方ノ件

第一五號

「オハ」發本大臣宛電報第四號ニ關シ

「オハ」來電中ニ引用セラルル鑛業所發電ハ貴方ニ於テ至急內容知悉ノ要アリト認メラルルモノニ限リ其ノ全文又ハ要領ヲ電報スルコトトシ然ラサルモノハ傳書使便ニテ送付スルコトト致スヘキニ付御諒承アリ度シ

「オハ」ヘ轉電セリ

谷外務大臣

E-1704

0088

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信寫

E4.2.2.2

外機密

總番號	符號	主管
一九六九ゼ一	暗	電

昭和十八年十二月三日後三時卅分

在蘇 佐藤大使

電信事項

第一〇四四號

貴電第一四五五號ニ關シ再電左ノ通

「石炭社債ハ仔會社勘定トシテ貸借表ノ借方」

E-1704

0089

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp